

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号炉及び4号炉の地震等に係る新規規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング(147)、(180)」

2. 日時：令和5年8月30日(水) 10時00分～12時15分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、井清係員、松末技術参与、田島主任技術研究調査官※

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 原子力土建部長  
他8名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<<本年8月23日に受領済み>>

- ・浜岡原子力発電所 基準地震動の策定について
- ・浜岡原子力発電所 基準地震動・基準津波等の審査対応スケジュールについて

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	はい規制庁地震津波審査部門の鈴木です。それでは時間になりましたので浜岡原子力発電所基準地震動の策定についてということで、
0:00:12	ヒアリングを始めたいと思います 8 月 23 日付けで資料定数ありますのでまずこちらについて説明をいただいて中身の確認と、
0:00:22	最後に一応スケジュールですね、審査対応スケジュールも同じ 8 月 23 日時点のものがいただいておりますのでこちらも最後にですね、
0:00:32	地震動の確認終わった後に、こちらの方説明いただくと、区切ってやりますのでよろしくお願いします。では、基準地震動、説明をお願いします。
0:00:40	はい。中部電力の大賀です。
0:00:43	6 月 23 日の 1162 回審査会合におきまして、特定震源を特定せず策定する地震動につきまして概ね妥当という評価をいただきました。本日は基準地震動の策定についての 1 回目のヒアリングということでお願いしたいと思います。
0:00:58	8 月 8 日の日に津波のラップアップの面談時の指摘事項についても資料の方に反映をさせていただいております。
0:01:05	説明時間およそ 50 分ほど予定しております。よろしくお願いいたします。
0:01:12	中部電力の北川です。
0:01:14	基準地震動の資料を用いて説明をしていきます。
0:01:19	2 ページに、本資料における説明箇所を示しており、
0:01:23	2 ページには、これまでの報告事項と該当審査会合を示しております。
0:01:29	3 ページは目次です。
0:01:31	1 章が概要、2 章が基準地震動の策定方針、
0:01:36	3 章が基準地震動の策定、4 章がまとめとなっております
0:01:43	補足説明資料は四つつけておきまして、①が免震構造を採用した、緊急時ガスタービン発電機建屋について、
0:01:52	②は、応答スペクトル法による基準地震動と、
0:01:56	断層モデル法による地震動評価結果との継続時間の比較。
0:02:01	③が、検討用地震ごとの断層モデル法による基準地震動、
0:02:06	④がプレート境界の形状に関する知見についてです。
0:02:11	まず、4 ページから 1 章の概要についてご説明をします
0:02:17	5 ページは基準地震動の策定方針で、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:20	白色の箱書きに記載をした、敷地ごとに震源を特定して策定する地震動、
0:02:27	及び震源を特定せず策定する地震動の評価結果を踏まえて、
0:02:32	応答スペクトル法による基準地震動、
0:02:35	断層モデル法による基準地震動、
0:02:38	特定せずの地震動による基準地震動を策定すること。
0:02:44	施設の構造が免震構造である場合は、やや長周期の地震応答が卓越するため、
0:02:50	その周波数特性に着目して地震動評価を実施し、必要に応じて、他の施設とは別に基準地震動が策定されていることを確認することについて、
0:03:02	浜岡の特徴を踏まえた策定方針を、その下に記載をしております
0:03:09	浜岡の基準地震動の策定における特徴としては、
0:03:13	南海トラフの最大クラスのプレート間地震が、
0:03:16	短周期
0:03:17	やや長周期ともに、敷地の地震動への影響が大きい地震であること。
0:03:23	S波低速度層の影響により、5号炉周辺の敷地東側で地震動の顕著な増幅が見られること。
0:03:31	やや長周期に着目が必要な免震構造物を設置していることが挙げられ、
0:03:38	それらを踏まえた策定方針として、
0:03:41	基地における地震動の増幅特性を踏まえ、
0:03:44	地震動の顕著な増幅が見られない敷地西側で用いる基準地震動Ss1と、
0:03:51	地震動の顕著な増幅が見られる敷地東側で用いる基準地震動Ss2をそれぞれ策定すること。
0:04:00	応答スペクトル法による基準地震動、
0:04:03	及び断層モデル法による基準地震動の策定にあたっては、
0:04:08	南海トラフの最大クラスのプレート間地震の断層モデル法による地震動評価結果を重視すること。
0:04:17	免震構造物について、その固有周期が比較的短いこと、
0:04:22	基地への影響が大きい地震が短周期、やや長周期ともに、南海トラフの最大クラスのプレート間地震であることから、
0:04:30	他の施設とは別に、
0:04:32	免震設計に用いる基準地震動

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:35	決定せず、
0:04:37	耐震設計と免震設計で共通の基準地震動を用いることとします。
0:04:45	ページは、今の方針を踏まえた策定フローで、
0:04:48	黄色の吹き出しで(1)から(4)の主な説明事項を示しております
0:04:55	(1)は、地震動の顕著な増幅を踏まえたSs1 及びSs2 の策定について、
0:05:02	(2)は、設計用等スペクトルの設定と模擬地震動の作成について。
0:05:09	(3)は、断層モデル法による地震動評価結果から、断層モデル法による基準地震動を設定する方法について、
0:05:19	(4)は、免震構造の採用を踏まえた基準地震動の策定についてです
0:05:25	7 ページは、敷地西側で用いる基準地震動Ss1 として策定した。
0:05:31	応答スペクトル法によるSs1-2。
0:05:35	断層モデル法によるSs1-1 から 23。
0:05:39	固定せずの地震動によるSs1 のNを示します
0:05:45	同様に、8 ページには、敷地東側で用いる基準地震動Ss2 として策定した応答スペクトル法によるSs2-D
0:05:55	断層モデル法によるSs2-1 から 20 人。
0:05:59	特定せずの地震動によるSs2 のNを示します
0:06:04	9 ページは、(1)地震動の顕著な増幅を踏まえた基準地震動の策定に係る概要です。
0:06:12	左側のフロー図でも示します通り、
0:06:16	市における地震動の増幅特性を踏まえ、
0:06:19	市西側で用いる基準地震動Ss1 と敷地東側で用いる基準地震動Ss2 をそれぞれ策定することとし、
0:06:29	1 ヒガン側のSsには、
0:06:31	顕著な増幅を考慮する地震動評価の結果に基づくとともに、
0:06:36	右図に示す通り、
0:06:38	長周期側で大きいケースがある、顕著な増幅を考慮しない地震動評価の結果に基づいて策定することとします
0:06:48	10 ページは、Ss1 の領域とSs2 の領域を示しております
0:06:54	11 ページは、(2)の応答スペクトル法による基準地震動、
0:06:59	Ss-Dの設計用応答スペクトルの設定に係る概要です。
0:07:06	フローで示しておりますが、Ss-Dは、各検討用地震の応答スペクトルに基づく評価結果を包絡するよう設定し、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:15	断層モデル法による評価結果の形状や地震動レベルも踏まえて設定をします
0:07:22	具体的には右の図の赤い丸の部分のように、
0:07:26	断層モデル法による地震動評価結果において、
0:07:30	応答スペクトル法と異なる、ごく短周期におけるスペクトル形状を反映するとともに、
0:07:36	断層モデル法の水平動は、応答スペクトルの地震動レベルが全周期体で大きいこと。
0:07:44	すなわち、例えばとして、左側の図中破線で示しておりますが、
0:07:49	1000 ガルの応答スペクトルで包絡されるものの、より大きい 1200 ガルの応答スペクトルを設定しております
0:07:58	また、ページ中を下部に括弧書きで記載をしておりますが、
0:08:02	S <sub>s</sub> -Dの水平動と鉛直動との比率については、プレート間地震の断層モデル法による地震動評価結果と整合的であることを確認しています
0:08:14	12 ページは、(2)の模擬地震動の作成に用いる地震規模の設定に係る概要です
0:08:22	慶應模擬地震動は、振幅包絡線をノダへ通る 2002 の方法に基づき設定し、
0:08:29	一様乱数の位相を用いた方法で、
0:08:32	補正します。
0:08:34	フローで示しておりますが、振幅包絡線の設定パラメータである地震規模の設定方針は、
0:08:41	地震動の継続時間への影響が大きい南海トラフのプレート間地震の最大規模を設定することとし、
0:08:49	ノダの方法で用いるプレート間地震の最大規模を検討して設定し、
0:08:55	した模擬地震動の継続時間を確認します。
0:09:00	プレート間地震の最大規模については、2011 年東北地方太平洋沖地震の強震観測記録において、
0:09:09	距離減衰式から求められるM <sub>w</sub> は 8.2 から 8.3 程度であること。
0:09:16	ノダの方法の適用範囲の地震の最大規模が、
0:09:19	M <sub>j</sub> 8.5 であることを踏まえ、
0:09:22	当初申請時のM9.0 から変更して、M8.5 で設定をし、
0:09:28	育成した模擬地震動の継続時間について、右側の図にも示す通り、
0:09:33	M <sub>w</sub> 9.0 のプレート間地震の断層モデル法による地震動評価結果に比べて、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:40	共振分の継続時間が十分に長い、保守的な地震動となっていることを確認しました
0:09:48	13 ページは、(3)の断層モデル法による地震動評価結果からの基準地震動の策定に係る概要です
0:09:58	フローにも示す通り、
0:10:00	断層モデル法による基準地震動は、
0:10:02	断層モデル法による地震動評価結果において、
0:10:06	応答スペクトル法による基準地震動 $S_s-D$ を上回るケースを考慮することを基本とし、
0:10:13	地震動レベルが大きいケースが施設に大きな影響を与えると考えられることから、
0:10:20	$S_s-D$ を上回るケースのうち、
0:10:22	$S_s-D$ を上回る周期で最大の応答スペクトルとなる地震動を、
0:10:27	断層モデル法による基準地震動として設定をします。
0:10:33	図 1 に、青線で示す $S_s-D$ を上回るケースのうち、例として、赤線で示す $S_s-D$ を上回る周期で最大の応答スペクトルとなる地震動を、
0:10:45	断層モデル法による基準地震動、
0:10:48	$S_s1-21$ としていることを示しております
0:10:52	また、図 2 で示す通り、黒線で示す $S_s-D$
0:10:57	及び赤線で示す断層モデル法による基準地震動について、
0:11:02	ある周期で上回るその他の断層モデル法による地震動評価結果はないことを確認し、
0:11:08	います。
0:11:11	14 ページは、(3)の断層モデル法による基準地震動の策定結果の概要です
0:11:19	紫色で示すプレート間地震の地震動主として、断層モデル法による基準地震動としております
0:11:28	15 ページからは、(4)免震構造の採用を踏まえた基準地震動の策定に係る概要です
0:11:37	15 ページは検討方針で、
0:11:40	耐震設計に用いる基準地震動は、
0:11:43	地震動評価結果の周期 5 秒までの応答スペクトルに基づいて策定することとし、
0:11:49	フローの通り、免震設計に用いる基準地震動については、
0:11:54	まず、①、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:56	免震構造物の周期特性を踏まえ、
0:11:59	モクモクするやや長周期の検討ですが、
0:12:02	着目するやや長周期は、免震構造審査ガイドを踏まえ、免震構造物の固有周期の2倍程度までとします。
0:12:12	このとき、図1のピンク色で示す通り、
0:12:15	着目するやや長周期が5秒を超える場合、周期越え5秒より長周期側にも着目した基準地震動を策定する必要があります
0:12:27	②やや長周期に着目した検討用地震及び地震動評価の確認については、
0:12:34	検討用地震について、やや長周期に着目した選定がなされていることを確認し、
0:12:40	その際、やや長周期における影響が大きい地震として、
0:12:45	力の距離は離れているが、地震規模の大きな地震の選定可能性を確認します
0:12:52	このとき、図2の緑色で示す通り、
0:12:56	短周期と長周期とで影響が大きい地震が異なる場合は、
0:13:01	他の施設とは別に、やや長周期に着目した基準地震動を策定する
0:13:06	のがあります。
0:13:08	また、地震動評価について、やや長周期に着目した評価がなされて、
0:13:13	ゴトウオカ
0:13:17	さん、必要に応じて、他の施設とは別に、
0:13:21	基準地震動
0:13:22	については、
0:13:23	耐震設計に用いる基準地震動に対して、①、②を踏まえて、必要に応じ、他の施設とは別に免震設計で用いる基準地震動を、
0:13:34	します。
0:13:36	最後に、④免震設計に用いる基準地震動の継続時間等の確認を実施します
0:13:44	16ページは、その検討結果です。
0:13:48	中央の四つの箱書きに浜岡としての検討結果を示しております
0:13:54	①の着目するやや長周期としては、
0:13:57	設置する免震構造物の固有周期が2秒程度であることを踏まえ、その2倍程度の周期5秒までを着目するやや長周期と評価しました。
0:14:10	②の検討用地震及び地震動評価の確認としては、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:14	検討用地震は、短周期、やや長周期ともに、南海トラフの最大クラスのプレート間地震が影響が大きい地震であり、
0:14:23	この地震の方は敷地からの距離は離れているが、地震規模の大きな地震より、やや長周期における敷地への影響が大きいことを確認しました。
0:14:35	③の必要に応じ、他の施設とは別に基準地震動を策定することについては、
0:14:42	他の施設とは別に、免震設計に用いる基準地震動を策定せず、
0:14:46	耐震設計と免震設計で共通の基準地震動を用いることとしました。
0:14:53	④の継続時間等の確認については、
0:14:57	断層モデル法による地震動評価結果との比較による検証や、国交省の技術的助言を踏まえた確認を実施しました。
0:15:07	これらの検討から、
0:15:09	免震構造物の固有周期が比較的短いこと、
0:15:14	市への影響が大きい地震が短周期、やや長周期ともに、南海トラフの最大クラスのプレート間地震であることから、
0:15:22	他の施設とは別に、免震設計に用いる基準地震動を策定せず、
0:15:27	耐震設計と免震設計で共通の基準地震動を用いることとし、
0:15:32	また、免震構造物は、敷地の地震動の顕著な増幅が見られない敷地西側のSs1領域に位置していることから、
0:15:42	免震設計に用いる基準地震動として、基準地震動Ss1を用いることとしました。
0:15:51	17 ページは、免震構造物である緊急時ガスタービン発電機建屋、
0:15:57	以降、GTG建屋と言いますが、そちらの概要を示しております
0:16:02	GTG建屋は、重大事故等対処設備であるGTGに作用する地震力の低減を目的として、免震構造を採用しており、
0:16:12	免震層の固有周期は2秒程度となっております
0:16:17	1 ページ飛んで19 ページ、20 ページは、当初申請からの変更点についてです。
0:16:24	19 ページは、左側が当初申請。
0:16:27	右側が今回のそれぞれの基準地震動の概要を示しております、
0:16:32	下線部が変更点となっております
0:16:36	藤スペクトル法による基準地震動で、
0:16:39	京王地震動の地震規模をM8.5としたこと。
0:16:44	断層モデル法による基準地震動を方向ごとに設定していたものを、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:49	3 方向をまとめたケースごとに設定したこと。
0:16:54	てせずの基準地震動として、標準応答スペクトルに基づく地震動を設定したことが、
0:17:00	当初申請からの変更点となります
0:17:05	20 ページは、当初申請と今回の模擬地震動
0:17:09	基準地震動の例。
0:17:11	基準地震動の応答スペクトル図を示しており、
0:17:16	21 ページは、基準地震動の策定に係る論点とその方針をまとめたもので、
0:17:23	スケジュールの審査会合資料として、以前提出していたものから、今回のSs策定の資料の作成にあたり、表現を適正化したものになります
0:17:33	1 章の概要は以上です
0:17:38	22 ページからは、2 章、基準地震動の策定方針についてで、
0:17:43	23 ページ、24 ページで、2.1、基本方針を示しております
0:17:50	応答スペクトル法による基準地震動、断層モデル法による基準地震動については、概要でご説明をした通りで、
0:17:59	定説の基準地震動については、
0:18:01	定せずの地震動評価結果において、
0:18:04	Ss-Dを上回るケースのうち、Ss-Dを上回る周期で最大の応答スペクトルとなる地震動を設定します
0:18:14	25 ページをお願いします
0:18:19	25 ページからは、2.2、地震動の顕著な増幅を踏まえた基準地震動の策定方針についてです
0:18:28	26 ページから 29 ページは、概要の 90 ページでご説明した通りですが、26 ページ、下の図に示す通り、
0:18:37	1 は、S波低速度層の影響の有無により、増幅が見られない敷地西側と増幅が見られる敷地東側とに分かれることを踏まえ、
0:18:47	市西側で用いるSs1 と、
0:18:50	1 ヒガシ側で用いるSs2 をそれぞれ策定し、
0:18:54	1 ヒガシ側のSsには増幅を考慮して策定することとしました。
0:19:00	ペース飛んで 28 ページ、図に示す通り、
0:19:04	1 ニシカワのSs1 は、増幅なしの地震動評価の結果に基づき作成し、
0:19:11	1 ヒガシ側のSsには増幅ありの地震動評価の結果に基づくとともに、
0:19:17	長周期側で大きいケースがある、増幅なしの地震動評価の結果に基づいて策定することとします

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:25	これは次のページ、29。
0:19:27	9 ページの右下の図に示しておりますが、
0:19:31	敷地への影響が大きいプレート間地震の断層モデル法による増幅ありの地震動評価は、
0:19:38	短周期は増幅ありの地震動評価の方が顕著に大きいものの、
0:19:43	長周期で増幅なしの地震動評価の方が大きいケースがあるためとなります。
0:19:50	30 ページは、Ss2 の策定方針のうち、
0:19:54	定説の地震動による基準地震動についてです
0:19:59	せずの増幅ありの地震動評価は、
0:20:02	短周期は増幅ありの地震動評価の方が顕著に大きく、
0:20:07	長周期は増幅なしの地震動評価と概ね同等、同程度であることから、
0:20:13	特定せずによるSs1には、
0:20:15	増幅ありの地震動評価の方が、敷地への影響が明らかに大きいと考えられますが、
0:20:21	確認も込めて、断層モデル法による基準地震動と同様に、
0:20:26	増幅ありの地震動評価の結果に基づくとともに、
0:20:30	増幅なしの地震動評価の結果に基づいて策定することとしました。
0:20:37	31 ページから 34 ページは、
0:20:40	過去の審査会合でお示している各地震動の概要資料になりますので、
0:20:45	詳しい説明を割愛しますが、
0:20:48	31 ページは、震源を特定して策定する地震動の検討用地震の選定について、
0:20:55	32 ページは、震源を特定して策定する地震動のうち、
0:21:00	顕著な増幅を考慮しない地震動評価の概要。
0:21:04	33 ページは、顕著な増幅を考慮する地震動評価の概要。
0:21:09	34 ページは、震源を特定せず策定する地震動の概要です。
0:21:16	35 ページからが 2.3、免震構造の採用を踏まえた基準地震動の策定方針についてです
0:21:26	36 ページは、15 ページの概要の再掲です
0:21:30	ページ左側に示す①から④のフローを、
0:21:34	37 ページ以降で、一つずつ説明をし、
0:21:37	きます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:39	37 ページ、38 ページは、①免震構造物の周期特性を踏まえ、着目する、やや長周期の検討です
0:21:49	中央の括弧浜岡原子力発電所の下に記載の事項は、概要でご説明した通りで、
0:21:56	免震構造物の固有周期が2秒程度であることを踏まえ、その2秒、2倍程度までの周期5秒までを着目するやや長周期と評価し、
0:22:06	ページ右側に記載しています通り、
0:22:09	着目するやや長周期は周期5秒以下で、耐震設計に用いる基準地震動の周期範囲を超えていないことを確認しました。
0:22:19	38 ページは、免震構造を採用したGTG建屋についての再掲です
0:22:27	ページ飛んで、
0:22:28	40 ページから44 ページは、②、やや長周期に着目した検討用地震及び地震動評価の確認です
0:22:38	40 ページ、中央の箱書きは、概要でご説明をした通りで、
0:22:43	左下の図中赤線で示す短周期
0:22:46	やや長周期ともに、南海トラフの最大クラスのプレート間地震が影響が大きい地震であり、
0:22:54	この地震の方が、敷地からの距離を離れているが、地震規模の大きな地震により、
0:22:59	やや長周期における敷地への影響が大きいことを確認し、
0:23:04	ページ右側で記載の通り、
0:23:06	耐震設計に用いる基準地震動の策定で着目
0:23:10	と違いはないことを確認しました。
0:23:15	右下の図でも、短周期、やや長周期ともに、紫色で示す、南海トラフのプレート間地震の影響が大きいことが確認できます
0:23:25	41 ページは、検討用地震の確認で、
0:23:29	上の箱書き、一つ目のマル。
0:23:31	やや長周期の地震動が卓越する地震について。
0:23:35	地震規模が大きい地震では、長周期成分を多く含む地震動となることから、
0:23:41	長周期に着目した検討用地震として、
0:23:45	地震規模が大きい地震が選定されていることを確認し、
0:23:49	二つ目の丸、免震構造審査ガイドを踏まえ、
0:23:53	やや長周期における影響が大きい地震として、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:57	力の距離は離れているが、地震規模の大きな地震の選定可能性を確認しました。
0:24:04	42 ページに、40 ページ、41 ページの右下に掲載している図を、地震タイプごとに、
0:24:11	地震タイプごとに分けた図を示します。
0:24:15	43 ページは、やや長周期に着目した検討用地震の確認についてです
0:24:22	短周期、やや長周期ともに、敷地の地震動への影響が大きい地震として、
0:24:28	南海トラフの最大クラスのプレート間地震を検討用地震に選定しますが、
0:24:34	左下のグラフ中、緑色で示す通り、短周期と、やや長周期とで影響が大きい地震が異なる場合は、
0:24:43	他の施設とは別に、やや長周期に着目した基準地震動を設定する必要があるため、
0:24:49	やや長周期における影響が大きい地震として、
0:24:53	1 からの距離は離れているが地震規模の大きな地震の選定可能性を確認します
0:24:59	右の図に示す通り、
0:25:01	日本海溝のM9 程度のプレート間地震や千島海溝のMは、
0:25:07	8.8 程度以上のプレート間地震が、
0:25:10	最大クラスのプレート間地震として想定されますが、
0:25:14	検討用地震とした、南海トラフの最大クラスのプレート間地震の方が、
0:25:20	最大クラスのプレート間地震であり、
0:25:22	かつ敷地に近い地震であることから、やや長周期における敷地への影響が大きいことを確認しました。
0:25:33	44 ページは、南海トラフのプレート間地震の、やや長周期に着目した地震動評価の確認についてです
0:25:43	断層モデル法による地震動評価については、
0:25:47	短周期を対象とする、統計的グリーン関数法による評価に加え、長周期を対象とする理論的手法による評価も行うハイブリッド法を用いて地震動評価を次
0:25:59	し、
0:26:00	また、図に示す通り、
0:26:02	強震動生成域を敷地直下に配置したケースを複数設定した上で、破壊開始点を複数設置する際に、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:26:11	破壊の伝播方向が敷地へ向かうよう配置をし、
0:26:15	定周期に影響が大きい、強震動生成域の指向性効果を考慮した地震動評価を実施しました。
0:26:24	45 ページは、③、必要に応じ、他の施設とは別に基準地震動を策定することについてですが、
0:26:32	中央の箱書き、赤字で記載の通り、他の施設とは別に、免震設計に用いる基準地震動を策定せず
0:26:40	耐震設計と民進設計で共通の基準地震動を用いることとし、
0:26:46	浜岡の免震構造物であるGTG建屋は、敷地西側のSs1 領域に位置していることから、
0:26:54	免震設計に用いる基準地震動として、基準地震動Ss1 を用いることとしました。
0:27:01	46 から 48 ページは、④免震設計に用いる基準地震動の継続時間等の確認についてです
0:27:11	Ss1-Dについて、46 ページ、中央部の時刻歴は形で示す通り、
0:27:18	地震規模が大きいMw9.0 のプレート間地震の断層モデル法による時刻歴は系との比較により、
0:27:26	地震規模に対して十分な継続時間を有していることを確認し、
0:27:32	浜岡は国交省の技術的助言で、南海トラフ沿いの巨大地震による長周期地震動対策の対象区域
0:27:40	時増加SZマンに位置することから、時刻歴はK応答スペクトルを青線で示す基整促波との比較を行い、
0:27:49	基準地震動の応答スペクトルや継続時間が保守的であることを確認しました。
0:27:57	47 ページは、Ss1-Dと断層モデル法による地震動評価結果の鉛直方向も含めた時刻歴 8 件の比較を示します。
0:28:09	ここでは、例として、プレート間地震の地震動評価結果のうち、
0:28:13	最大加速度が最も大きいケースとの比較を示しておりますが、
0:28:18	その他の比較については、補足説明資料②に掲載しております
0:28:25	48 ページは、基整促波との比較による確認を示しており、
0:28:30	Ss1-2 は、基整促波と比べて、加速度時刻歴は県において第振幅の繰り返しが多く、
0:28:38	応答スペクトルが長周期を含めて、より十分に大きいものとなっております、
0:28:43	保守的な地震動であることを確認しました。
0:28:48	49 ページは、検討結果で、16 ページの再掲です

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:55	50 ページは免震構造の採用を踏まえた基準地震動の策定のまとめで、繰り返しになりますが、黄色の箱書き、太字下線部の通り、
0:29:05	免震構造物については、他の施設とは別に、免震設計に用いる基準地震動を策定せず、
0:29:11	耐震設計と免震設計で共通の基準地震動を用いること。
0:29:17	免震設計の用いる基準地震動として、
0:29:20	基準地震動 $S_{s1}$ を用いることとします
0:29:25	スペース飛んで 52 ページから 3 章、基準地震動の策定についてです
0:29:33	53、54 ページに基準地震動の策定方針とフローを示します。
0:29:39	内容については、これまで説明しておりますので、説明は割愛します
0:29:46	55 ページからは、3.1、応答スペクトル法による基準地震動についてです
0:29:53	56 ページは、設計用応答スペクトルの設定の概要について、
0:29:58	11 ページの佐伯
0:30:01	57 ページから具体的に説明をしていきます
0:30:05	まずは、 $S_{s1-2}$ の設計用応答スペクトルの設定について、
0:30:11	次に $S_{s2}$ の D の設計用応答スペクトルの設定につ
0:30:16	そのあと、設計用務模擬地震動の作成について、同様に、順番にてご説明をしていきます。
0:30:25	57 ページは、各検討用地震の応答スペクトルに基づく地震動評価結果と、
0:30:31	$S_{s1-D}$ との比較を示します
0:30:35	各検討用地震の応答スペクトルを、
0:30:38	井清スイッチの D が包絡していることが確認できます
0:30:43	58 ページは、 $S_{s1-D}$ と断層モデル法による地震動評価結果との比較です
0:30:51	黒線が $S_{s1-D}$
0:30:54	青色が内陸地殻内地震。
0:30:56	紫色がプレート間地震。
0:30:59	緑色が海洋プレート内地震の断層モデル法による地震動評価結果で、
0:31:06	59 ページは、設計用応答スペクトルの水平動と鉛直動の比率についてです
0:31:14	$S_{s1-D}$ の設計用応答スペクトルの水平動と鉛直動の比率は、
0:31:21	水平動が鉛直度の約二倍となっております、
0:31:24	この水平動と鉛直動の比

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:26	は、
0:31:27	次のページに示すプレート間地震の断層モデル法による地震動評価と、
0:31:33	整合的であることから、妥当なものと評価をしました。
0:31:38	60 ページは、プレート間地震の断層モデル法による地震動評価結果について、
0:31:44	9 ケースの水平動に対する鉛直動の最大加速度の比率を示しており、
0:31:51	グラフから、鉛直動が水平動の約 0.5 倍であることが確認できます。
0:31:58	61 ページからが、Ss2 の輪についてです。
0:32:03	構成としては、Ss1-Dと同じですが、
0:32:06	61 ページが、各検討用地震の応答スペクトルによる地震動評価結果と Ss2-Dとの比較です
0:32:16	顕著な増幅を考慮する、しないすべての各検討用地震の応答スペクトルを、
0:32:22	Ss2 のDが包絡していることが確認できます
0:32:27	62 ページは、Ss2 のリート、断層モデル法による地震動評価結果との比較です
0:32:34	黒線がSs2 のD。
0:32:37	青色、紫色、緑色がそれぞれ顕著な増幅を考慮しない評価結果。
0:32:43	黄色、赤色、水色がそれぞれ顕著な増幅を考慮する評価結果です
0:32:50	63 ページは、設計用応答スペクトルの水平動と鉛直動の比率についてで、
0:32:57	Ss2-Dの設計用応答スペクトルは、
0:33:01	水平動が鉛直動の約 2.9 倍となっており、
0:33:05	この水平動と鉛直動の比率は、次のページに示します断層モデル法による地震動評価結果と、
0:33:13	整合的であることから、妥当なものと評価をしました。
0:33:18	次のページ、64 ページは、増幅ありのプレート間地震の断層モデル法による地震動評価結果について、各ケースの水平動に対する、
0:33:29	鉛直動の最大加速度の比率を示します。
0:33:33	基本震源モデルを除き、鉛直動が水平動の約 0.35 倍となっていることが確認できます
0:33:42	基本震源モデルについては、
0:33:45	増幅ありの強震動生成域の範囲が限定的であることから、
0:33:49	他のケースと傾向が異なると分析しております

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:55	65 ページは、設計用模擬地震動の作成についてです
0:34:01	振幅包絡線をノダへ通る 2002 の方法に基づき設定し、
0:34:06	一様乱数の位相を用いた方法で作成をします
0:34:11	振幅包絡線の設定パラメータについては、概要でもご説明をしましたが、2011 年東北地方太平洋沖地震の強震観測記録において、
0:34:22	距離減衰式から求められるMwは 8.2 から 8.3 程度であること。
0:34:28	ノダの方法の適用範囲の最大規模がMj8.5 であることを踏まえ、
0:34:34	でも 8.5 で設定をし、
0:34:36	等価震源距離 $X_{eq}$ は、継続時間が長めとなるよう、プレート間地震の震源モデルのうち、
0:34:43	最も $X_{eq}$ が長い 136.2 キロメートルで設定をし、
0:34:51	66 ページは、模擬地震動の作成に用いる地震規模の設定についてで、
0:34:56	前のページでご説明した内容ですが、左下のフローの通り設定をし、右の図にも示す通り、Mw9.0 のプレート間地震の断層モデル法による地震動評価結果に比べて、
0:35:11	共振分の継続時間が十分に長い、保守的な地震動となっていることを確認しました。
0:35:19	67 ページに作成した応答スペクトル法によるSs1-2 の設計を応答スペクトルに適合する模擬地震動をさ示します
0:35:31	68 ページは、作成した模擬地震動が、日本電機協会 2023 に示される適合度の条件を満足していることを確認しています。
0:35:42	適合度の条件は、箱書き二つのポチで示す通りです。
0:35:49	69 ページは、断層モデル法による地震動評価結果の時刻歴は系との比較で、47 ページの再掲です。
0:35:59	1 ページ飛んで 71 ページからが、Ss1にのりについてです
0:36:05	構成は同じで、71 ページに、Ss-Dの設計用応答スペクトルに適合する模擬地震動、
0:36:14	72 ページが適合度の確認。
0:36:17	73 ページが断層モデル法による地震動評価結果の時刻歴は系との比較で、
0:36:24	Ss2-Dにおいても、Ss1-Dと同様に、本震分の継続時間が十分に長い、保守的な地震動となっていることから、継続時間として妥当なものとして評価をしております
0:36:39	続いて、74 ページからが、
0:36:41	3.2、断層モデルを用いた手法による基準地震動についてです

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:48	75 ページは策定方針です
0:36:51	概要でご説明をした通りですが、断層モデル法による基準地震動はSs-Dを上回るケースを考慮することを基本とし、
0:37:00	Ss-Dを上回るケースのうち、Ss-Dを上回る周期で最大の応答スペクトルとなる地震動を断層モデル法による基準地震動として設定します。
0:37:13	76 ページから具体的に説明をしていきますが、まずは断層モデル法によるSs1 の設定について、
0:37:21	そのあと、断層モデル法によるSs2 の設定についてご説明をしていきます
0:37:29	76 ページが、各検討用地震の断層モデル法による顕著な増幅を考慮しないすべての地震動評価結果、162 検出、
0:37:39	77 ページが断層モデル法による地震動評価結果のうち、Ss1-Dを上回る 62 ケース。
0:37:49	78 ページが、Ss1-Dを上回る 62 ケースのうち、
0:37:55	Ss1-2 を上回る周期で最大の応答スペクトルとなる地震動、32 ケースを示します。
0:38:03	こちらを断層モデル法による基準地震動Ss1 として設定をします
0:38:10	79 ページは、断層モデル法による基準地震動Ss1 として設定した 23% の応答スペクトル。
0:38:20	80 ページに、それぞれの地震動評価におけるケース名称、最大加速度を示します。
0:38:28	81 ページは参考に、地震タイプごとの応答スペクトルを示しております
0:38:36	82 ページからは、Ssについてで、構成は、Ss1 と同じです。
0:38:43	82 ページが、各検討用地震の断層モデル法による顕著な増幅を考慮する、考慮しないすべての地震動評価結果、225 ケース。
0:38:55	83 ページが 225 ケースのうち、Ss2-Dを上回る 77 ケース
0:39:03	84 ページがSs2 のDを上回る、
0:39:07	77 ケースのうち、
0:39:09	Ss-Dを上回る周期で、
0:39:11	最大の音スペクトルとなる地震動
0:39:14	32 ケースを示します。
0:39:19	こちらを断層モデル法による基準地震動Ss2 として設定をします
0:39:26	85 ページは、断層モデル法による基準地震動Ss2 として設定した 22 羽の応答スペクトル。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:35	86 ページに、それぞれの地震動評価におけるケース名称。
0:39:39	最大加速度を示します
0:39:43	87 ページは参考に、地震タイプごとの応答スペクトルを示しております
0:39:51	続いて 88 ページからは、3.3、震源を特定せず策定する地震動による基準地震動についてです
0:40:01	89 ページは策定方針です
0:40:05	特定せずの地震動による基準地震動も、
0:40:08	Ss-Dを上回るケースを考慮することを基本とし、
0:40:12	Ss-Dを上回るケースのうち、Ss-Dを上回る周期で最大の応答スペクトルとなる地震動を特定せずの地震動による基準地震動として設定をします
0:40:25	90 ページ以降に具体的に説明して、
0:40:29	おります。
0:40:30	まず、特定せずのSs1 の設定について、
0:40:34	そのあと特定せずのSs2 の設定についてご説明をしております
0:40:40	90 ページが顕著の増幅を考慮しない、特定せずの地震動評価結果 2 ケース。
0:40:48	91 ページが、特定せずの地震動評価結果のうち、
0:40:52	Ss1-Dを上回る、青い線のケース 1 ケースを示します。
0:40:59	92 ページ。
0:41:00	先ほどのSs1 の利用を上回る 1 ケースが赤線で示すSs-Dを上回る周期で最大の応答スペクトルとなる地震動となりますので、
0:41:11	こちらを特定せずの地震動による基準地震動Ss1 のNとして設定をします
0:41:19	93 ページは、特定せずの地震動による基準地震動Ss1 のNを改めて示しております
0:41:28	94 ページからは、Ssについてです
0:41:32	94 ページが顕著の増幅を考慮する、考慮しない、すべての特定せずの評価結果 4 ケース。
0:41:40	95 ページが、そのうち、Ss2-Dを上回る、青線のケース 2 ケースを示します
0:41:48	96 ページ、先ほどのSs2-Dを上回る 2 ケースのうち、
0:41:54	Ssにのりを上回る周期で最大の応答スペクトルとなる地震動。
0:41:59	中、赤線で示す 1 ケースを特定せずの地震動による基準地震動Ss2 のNとして設定をします

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:09	97 ページには、特定せずの地震動による基準地震動 $S_s-N$ を改めて示しております
0:42:18	98 ページからは、4 章、まとめです
0:42:23	99 ページは敷地西側で用いる基準地震動 $S_{s1-D}$ 。
0:42:29	$S_{s1-1}$ から 23。
0:42:31	$S_{s1}$ の $N$ の応答スペクトル。
0:42:35	100 ページは、その地震動評価におけるケース名称と最大加速度の一覧。
0:42:42	101 ページから 104 ページが加速度時刻歴は形。
0:42:49	105 ページから 108 ページが速度時刻歴は形です。
0:42:56	109 ページは、敷地東側で用いる基準地震動 $S_{s2}$ として設定をした $S_{s2}$ の $D$ 。
0:43:03	$S_{s2-1}$ から 22。
0:43:06	$S_s-N$ の応答すべつとる
0:43:09	60 ページが、それらの地震動評価におけるケース名称と最大加速度。
0:43:16	111 ページから 114 ページが加速度時刻歴。
0:43:24	115 ページから 118 ページが速度時刻歴は $K$ です
0:43:30	本編の説明は以上となります
0:43:34	続いて 119 ページお願いします
0:43:43	119 ページから補足説明資料についてです
0:43:47	120 ページからは、補足説明資料①として、免震構造を採用したGTG 建屋に関する資料を掲載しております
0:43:58	121 ページは、GTG建屋の概要でして、17 ページの再掲ですので、説明は割愛します。
0:44:06	122 ページと 123 ページは、
0:44:10	免震装置のある鉛プラグ入り積層ゴム。
0:44:13	弾性滑り支承。
0:44:15	鋼材ダンパーオイルダンパーの概要を示しております、
0:44:19	124 ページには、
0:44:21	GTGの概要を示しております
0:44:26	125 ページは、GTG建屋の固有周期に関する資料であり、
0:44:32	地震応答解析モデルに基づき、固有値解析を実施した結果、免震層の固有周期は 2 秒程度となっております。
0:44:42	126 ページは、免震層による応答低減の解析例として、
0:44:47	左側に加速度時刻歴は形。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:50	右側に床加速度時刻、
0:44:53	加速度応答スペクトルを示します。
0:44:57	上部基礎版と下部基礎版の応答比較により、
0:45:00	免震層によって、上部基礎版である 1 回のごく短周期の揺れが軽減されていることを確認できます。
0:45:11	1 ページ飛んで 128 ページからは、補足説明資料②として、応答スペクトル法による基準地震動と、
0:45:19	断層モデル法による地震動評価結果との継続時間の比較を示しております
0:45:26	129 ページは、47 ページの再掲。
0:45:30	30 ページは、Ss1-Dとプレート間地震の地震動評価結果のうち、
0:45:36	最大加速度が最も大きいケース。
0:45:39	断層モデル法による基準地震動のうち、共振分の継続時間が最も短いケース、長いケースとの比較を示しております
0:45:50	いずれもSs1-Dの方が共振分の継続時間が十分に長いことを確認しました。
0:45:58	31 ページは、先ほどと同様に再掲です。
0:46:03	132 ページには、Ssに乗りとプレート間地震の地震動評価結果のうち、最大加速度が最も大きいケース。
0:46:12	断層モデル法による基準地震動のうち、共振分の継続時間が最も短いケース。
0:46:20	長いケースとの比較を示します。
0:46:23	こちらもSs2 のDの方が共振分の継続時間が十分に長いことを確認しました。
0:46:32	33 ページは、応答スペクトルによる基準地震動の方が、
0:46:36	断層モデル法による地震動評価結果と比べて、共振分の継続時間が十分に長い、保守的な地震動となっている理由を掲載しております
0:46:49	134、135 ページはその補足資料で、
0:46:53	第 1041 回会合資料の再掲となります。
0:46:58	136 ページからは、補足説明資料③として、
0:47:03	検討用地震ごとの断層モデル法による基準地震動を掲載しております。
0:47:10	137 ページ、矢印の下に記載の通り、
0:47:13	138 ページから 152 ページに、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:17	Ss-Dと各検討用地震の断層モデル法による地震動評価結果の比較図を順に示しております。
0:47:26	説明は割愛します。
0:47:30	153 ページお願いします
0:47:37	153 ページからは、補足説明資料④として、プレート境界の形状に関する知見について示しております
0:47:46	154 ページに、第 1041 回審査会合でのコメントとその回答概要を示します。
0:47:55	敦賀トラフの下に沈み込む東海地域のフィリピン甲斐プレートの形状に関する新たな知見、松原江藤る 2021 の確認について、
0:48:06	浜岡の地震動評価に用いている、内閣府 2012 のプレート境界の形状と比較をして、
0:48:14	敷地への影響が支配的な東海SMGA①までの距離が概ね同等となっていることは確認したが、
0:48:23	もう少し説明性を上げるため、地震動評価への影響が小さいことを示すこと。
0:48:29	とのコメントを踏まえ、
0:48:30	松原において、随時されている範囲のプレート境界深さを反映した強震断層モデルを作成し、
0:48:39	断層モデル法による地震動評価を行い、
0:48:42	内閣府モデルと地震動評価結果が同程度であることを確認した結果を説明します
0:48:51	155 ページから 159 ページは、1041 回会合資料の再掲で、
0:48:57	159 ページお願いします。
0:49:03	159 ページに示す通り、松原について、地震動評価への影響確認として、地震動評価に影響が大きい敷地直下及びその周辺について、
0:49:15	内閣府 2012 と概ね整合していることを確認しました。
0:49:21	160 ページからが、今回の追加の確認検討になります。
0:49:26	ここでは内閣府モデルの強震断層モデルをベースに、
0:49:30	松原において随時されている範囲のプレート境界深さを反映した強震断層モデルを作成して、
0:49:38	断層モデル法である、統計的グリーン関数法による地震動評価を行い、
0:49:44	内閣府モデルと地震動評価結果を比較します。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:49	評価対象領域は、図中ピンク色で示す松原がプレート境界上面の形状を推定している範囲を踏まえ、
0:49:58	駿河湾行きプラス東海域とし、
0:50:01	評価対象ケースは、ページ下の三つも人図に示す通り、
0:50:06	敷地への影響が大きい直下ケースとします。
0:50:11	161 ページから 166 ページで、各ケースの統計的グリーン関数法による地震動評価結果について、
0:50:19	応答スペクトル、時刻歴は形を示しており、
0:50:23	松原において随時されている範囲のプレート境界深さを反映した場合の地震動レベルは、
0:50:30	内閣府モデルに基づく場合と同程度となっていることを確認しました。
0:50:41	167 ページをお願いします。
0:50:47	167 ページがまとめになります。
0:50:51	今回の追加確認検討としては、一番下のマル。
0:50:55	松原において従事されている範囲のプレート境界深さを反映した強震断層モデルを作成して、断層モデル法による地震動評価を行い、
0:51:05	内閣府モデルと地震動評価結果が同程度であることを確認しました。
0:51:11	資料の説明は以上になります。
0:51:19	はい。記事をスズキで説明ありがとうございました。
0:51:25	と何か同じようなページが 2、3 回出てくるということは、
0:51:30	とさておいといてですね。
0:51:33	初めからいきますか初回なんでね。
0:51:36	5 ページ目、目次の後は 5 ページ目が、
0:51:40	一番最初の説明なんですけど、
0:51:43	うん。
0:51:45	これは、
0:51:47	これ一番最初のこの基準地震動の策定って箱は、
0:51:51	これなんかあれですか要求とかガイドのことをまず述べようとしてるんですかね。
0:51:57	何か唐突にこう免震構造である場合はとかっていうのが出てきて、
0:52:03	そういう話で浜岡のナカシマの特徴みたいなものがあるって初めて、
0:52:10	いやこういう、
0:52:11	個人で基準地震動を作ります。についてはこういう特徴があるので、
0:52:16	一番下のこういう方針で基準地震動を作りますっていうのはわかるんです。唐突にこう、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:20	メッシの場合はとかって、
0:52:23	いうものが出てくるんですけど。
0:52:27	あとは特徴っていうものの中丸の順番と、
0:52:34	決まってるのかな。丸野。
0:52:37	特徴の方だと、何かまずは、南海トラフ。
0:52:42	の最大クラスのプレート間地震が短周期やや長周期とも影響が大きい。
0:52:49	ていうのが何かその特徴を踏まえた方針のところ、最初書いてあるのかなと思うと何か大井増幅の話が出てみたり、
0:52:57	何かこう、特徴と策定方針とか、こういうものが対応つくように、
0:53:03	してもらえませんかという、何か順番がちょっと入れ子になってるような気がしますけど、大体言わんとしてることはね。
0:53:10	特徴と、その下の策定方針はわかるんですけど、
0:53:14	の上で、
0:53:15	ちょっと南海トラフのプレート間地震が短周期やや長周期ともに地震動への影響が大きい地震だ。
0:53:25	だから、
0:53:26	断層モデル、
0:53:28	の評価結果を重視するっていうところが、
0:53:33	ちょっと飛んで少し、
0:53:36	確かに、プレート間地震が一の結果が、南海トラフのプレート間地震の結果が単収契約長周期とも影響が大きいってそれは確かに事実。
0:53:44	けど、
0:53:46	そうすると、なぜ断層モデル重視にナカなるのかっていうところが、ちょっとぽつっと入ってこなかったんでちょっとそこを教えてもらっていいか。
0:53:59	中電、中部電力の岩佐です。ご指摘ありがとうございます整理が悪い点についてご指摘を踏まえた懸念点わかりましたのでちょっと再整理をさせていただきます。
0:54:10	その上で断層モデル重視のところを書いている話なんですけどちょっと書き方が悪かったかもしれませんが、上の方の黄色い四角の方では敷地に震源域が大きいものが近いことで、
0:54:23	影響が長周期の短周期が大きいという話を書いていて下のほうの丸の二つ目で書いているのは、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:28	敷地に近いところだと、運動スペクトル法の方だと限界があるので、断層モデル法を重視しなさいという考え方をちょっと書いたつもりだったんですがちょっと両者の関係が多分わかり、
0:54:41	話が飛んでいてわかりにくい。
0:54:43	ということだと
0:54:44	その辺も、先ほどの整理も含めて、ちょっと記載については検討
0:54:52	はい、わかりました。じゃああれですねこの下の策定方針のところは、一応その311の時の、
0:54:59	とあるMw8.28. 3相当で、
0:55:02	話が一応一応ノダの限界もあって8.5、一応そこで一応311の地震観測記録からすると、
0:55:11	だからおかしくはなさそうではあるものの、とはやっぱり敷地に近い部分、
0:55:17	ここは断層モデル重視するっていう、そういう話なわけですねこの下は、どちらかというと、
0:55:22	動きなんですかね。だから上は、その見込めるとイコールにはなっていないっていうことだとするとちょっとその半繋がりをもう少しわかるように、
0:55:32	特徴、
0:55:33	策定方針、
0:55:35	特徴、特徴ではないのか。でも一応敷地Gとプレートが近いっていう、一応特徴じゃ徳田ちょっとそこら辺が何かストンとこ、上の真ん中の三つの丸と、
0:55:46	下の見積もりが、ダイレクトに繋がってないので、
0:55:50	ちょっとわかりにくかったっていう趣旨なんで、
0:55:52	そこはちょっと、少し資料の方は直してください。
0:55:56	はい。中部電力の岩瀬でちょっと1点だけ趣旨は理解したんですけどもこの段階では断層モデル法を重視すると書いてるのは
0:56:07	近いところだと断層モデル法をよく見ないといけないよという程度のことしかまだ書いてるつもりはなくてそのあとこれを踏まえてそれぞれ
0:56:15	地震の規模設定をどうするだとか、継続時間をどうするかどうかっていうのはまたその後で検討する内容だと。
0:56:22	その点も含めて
0:56:23	整理、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:26	はい。あんまりでもここにごちゃごちゃ書きすぎるとっていうのは、その通りなんで。はい。
0:56:32	その上でた。
0:56:34	9 ページとかは単に目次に、
0:56:39	対応させた。
0:56:42	どうなん。
0:56:44	あとはSs一覧とかですねこれは大体概要なんで、端的に結果をっていうことで、
0:56:54	名前は
0:56:57	Ss1、1 が増幅なしにが増幅ありで、Dが等々スペクトルで、
0:57:05	市のエザワんが、
0:57:08	これはどういう島なんだ一応内陸地殻内プレート間海洋プレート内で、
0:57:15	今日その順番でこれは降っていて、内陸地殻内がなければそのまま繰り上がっていくっていう、
0:57:22	これ、そういうセンスで一応枝番をつけてるんですね。
0:57:26	中部電力の岩瀬ですここは
0:57:29	何も考えてないというか単純に今まで内陸地震プレート間地震、海洋プレート内地震という
0:57:36	説明してきた順番をそのまま踏襲
0:57:41	はい。今まで説明を聞いている段階なんで、
0:57:46	うん。いや別に今から
0:57:48	将来、将来のことを気にしても仕方がないので、
0:57:52	いや後から何か増えると。
0:57:54	これだから内陸地殻内プレート間プレート内でやって後から何かプレート考えや、5年後10年後にですね増えると。
0:58:02	何かしょうがないわけですね、一緒に次出すっていうはい。
0:58:05	あんまりその話をね、気にしてもしょうがないんで。
0:58:08	一応ネーミングセンサー地震動評価の順番ということですね。
0:58:13	はい。
0:58:20	あとは根井、これの概要、概要はこのぐらいなのかな、一応、
0:58:26	9 ページのところもう、あんまりここでこれ以上に詳しく書く後で説明があったのかな。
0:58:34	ていうこれ一顕著な増幅はある特定の、これ周期何秒ぐらいでしたっけ、もともとが増幅自体が、多分限られた周期で増幅していて、当然それを反映して増幅ありのケースだったんだから、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:47	長周期側ね。
0:58:49	多分、
0:58:50	どっこいどっこいというかそもそもそんなに差がないはずなんで、それは入れ子になるっっちゃうのは
0:58:55	あるので、これは、このページでそこまで詳しく書く必要ないんでそれ後で説明があれば、
0:59:01	十分だと思いますけど、90 はこれまで説明したような話ですね。
0:59:06	ちょっとその 11 ページ。
0:59:10	この設計用応答スペクトルの設定のところが、何かこのページだと後ろを見ていくと、どういう手順でやっているのかっていうのがね、パッと、
0:59:20	わからないんですけど。
0:59:23	これ、
0:59:24	先ほども断層モデルの評価結果なんかもある程度、
0:59:28	重視しますよという話はしていて、
0:59:32	ただ、
0:59:34	このフローとあと後ろの資料を見ていくとこれ、
0:59:39	まず何か断層モデルとの比較の前に、当然応答スペクトルの地震動評価結果を包絡
0:59:47	させてこれ先SSEDを作るんですかそのあとに何か断層モデルと事後的に比較しようとしてるのか。
0:59:55	ただ何かこう、
0:59:57	11 ページのこれ見右から 2 番目の図ですよねこの左側の図か。
1:00:02	これ何か一応、
1:00:04	1000Galの、
1:00:06	包絡一旦応答スペクトルの地震動評価結果を仮置で何か一旦包絡する。だからこの時点でSs1Dと名前はまだつけられないわけですけど、
1:00:17	何か仮置きをしてみて、仮置きをしたものなんか断層モデルとの比較をしてチューニングをして何かSSGを作ってるのか。
1:00:25	何かそのあたりがね、よく、
1:00:28	見えてこないのですが、
1:00:31	何かこう断層モデルの評価結果これなんか形状も踏まえて設定すると言いつつ、何か先にSs-D引いたら、何かもう、
1:00:39	踏まえる前に作っちゃってるじゃないですかになるんですけど、
1:00:42	ちょっとそこら辺が、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:44	ちょっと実際どういう手順でやられてるのかっていうのがあんまり見えてこなかったんですけどちょっと教えてもらっていいですか。
1:00:51	はい。中部電力の岩瀬です。
1:00:53	何で
1:00:56	衛藤藤スペクトルの設計応答スペクトルのレベルを断層モデルをもう見ながら設定しているところと、
1:01:03	応答スペクトルの設定の最初の説明のところが一番最初に結論というイメージで、
1:01:09	先に設計応答スペクトルがこれですというのを書いてしまっているんです
1:01:13	けども、それと応答スペクトル法で包絡するというす、応答スペクトル法の地震動評価結果を包絡するっていう話を今1枚で書いて、
1:01:23	だから、今の鈴木さんにご指摘いただいた点がちょっと混乱してるかな。
1:01:27	いうふうに今受け取りました。実際やってるところはちょっと手順というとなかなか難しいところはあるんですけども、
1:01:35	当然
1:01:37	同等スペクトル法の結果を包絡できるレベルはどれぐらいかなというのをイメージしながら断層モデル法の
1:01:45	結果を参照して、これぐらいかなってやってるのが、実際の作業になりますので、
1:01:50	今11ページの左側にフローという形で書きましたけれどもこの段階で順番に設定していくというよりは、この中の応答スペクトル法の包絡と言っているところと断層モデルを踏まえた、
1:02:03	設定っていうところを、頭の中で試行しながら、最終的に応答スペクトル法によるDを決めているって言うのはこの最後のフローのところの、
1:02:14	$S_s-D$ の設計応答スペクトルと書いてある四角でレベルを決めてここで決定してるっていう話ですので、ちょっとその辺、話がわかるように、どうちょっと工夫したらいいかすぐわかり
1:02:25	けど、ちょっと資料の記載の方
1:02:27	をしないと
1:02:31	はい。なので、頭の中で思い描きながらっていうと、
1:02:36	多分それがあまり見えとか我々に見えない、聞こえない、理解されないとどうしようもないので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:44	そんなに綺麗なフロー通りに何か仮オクSs-Dを作ってみたいなものではないのはわかりましたけど、何かこうサンプル的に 51 ページとか後も、
1:02:57	おんなじぐらいしか出てこないからこのなんかごく短周期のこのコマ 02 のところだけ最後なんかひょこつとで、
1:03:03	上げてみたりとか、
1:03:06	こういうものもこれは何かSs1Dの方ですよねこれが、
1:03:12	断層モデルの評価結果の形状って何か最初の方では、どこだか、南海トラフの最大クラスのプレート間地震の、
1:03:20	断層モデルを用いた手法による地震動評価結果を重視するって、何か、5 ページでは書いてあったんで、
1:03:26	何かプレート間地震のところ特に重視してるのかと思えばですね、11 ページ見ると、何か海洋プレート内とか内陸地殻内もひっくるめて、何か全部で何か比較してるようにも見えるし、
1:03:39	この辺もサンプルこのページは概要なんで例えばこういうことを考慮したってということだと思うんですけど。
1:03:45	ちゃんとその後ろの方では、多分ちゃんとこう応答スペック、ある程度仮置して包絡させたSs-D
1:03:54	こんなものを応答スペクトルの評価結果包絡させるとこうなるな。それと、
1:04:00	Ss-A断層モデルのものを比較して、
1:04:03	これとこれ、これについては考慮しますっていう選別がですね、何かその断層モデルの
1:04:10	と比較して、どういう考えでこれを、ここ、これだと 0.02 のところを採用しましたって話なんですけど。
1:04:18	当然それ以外のところも、
1:04:20	特徴が出たり上回ったりしてるものもあると思いますけど、別に何でもかんでも全部包絡するしろという話ではないので、
1:04:29	ちょっと何かなぜこれだけ拾って他は拾ってないのかとか、ちょっとそういうところも、応答スペクトルのSs-Dと断層モデルを
1:04:38	比較してこういうことがあるので、従って
1:04:42	例えばこれは例えばですけど、こういう反映のさせ方をするっていうのが、
1:04:47	何か後ろを見ていってもですね。
1:04:50	見えて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:04:51	こないんですよ。
1:04:53	例えば、この 11 ページの右側の材料なんか非常にわかりやすい例だ と思いますけど、
1:05:00	個別 2、
1:05:02	何かこう、0.1 度より、
1:05:05	短周期側で何か $S_s-D$ よりも断層モデルが合わない、上回らないよう にするとかまあすべてそういうものでもないんですよこれ多分本当に ごく短周期側のところの特徴だけなんで、
1:05:17	何でここのごく短周期側だけ気にしたのかとかですね、ちょっとそういう ところも、
1:05:22	何かあんまりいい理由とかですね、見えて来んのですけど、そこら辺 は、ほかにも何かこういう形で考慮してる部分ってあるんですかこれ。
1:05:32	中部電力の岩佐です。ごく短のところの形状については
1:05:38	結構前から、こういう方
1:05:41	でこれ断層モデル法の計算をやり始めた時からな。
1:05:45	もう、
1:05:46	統計的グリーン関数法で地盤、当社の地盤モデルを用いて計算する と。
1:05:51	これ、プレート間地震にかかわらず、基本的にこの
1:05:55	北端のところの形状がこういう形状になる傾向が、
1:05:59	あるのは、前からわかっていましたので、これ震源によってどっか出てく る
1:06:06	これ全体的にこういう形になっているので、ここはちょっと素直に
1:06:11	反映しようというのがもともと最初からあって、
1:06:13	この反映を前提に、
1:06:16	地震動レベルも含めて応答スペック設計応答スペクトルのところを考 えているというのが、実際やってる。
1:06:23	ちょっと説明に関しては
1:06:27	今申しました統一的に見られる。
1:06:30	からというところとかそういったところは確かに書き分けられていませ んで、その辺ご指摘を踏まえて、説明の、
1:06:36	記載については、スタイル
1:06:42	はい。これは、この例はあれですかね、地下構造モデルを介する一応 断層モデルの特徴を少し取り入れましたっていう、
1:06:51	そういうことなんで、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:52	当然ねの応答スペクトル法だとそんなものはないので、
1:06:56	これ、その特徴が出たので、出る出たのでってか断層モデルの地震動がやってみると、軒並みそういう特徴が出てるんで、それは取り入れました。ちょっと数、今この場で、
1:07:08	あれを取り入れ日これ取り入れないべきって議論するつもりはないんで、
1:07:12	ちょっとどういう考えでこういう部分を採用したのかとかですね。
1:07:16	これは、
1:07:17	わかるようにしてくださいというのがですね、この 11 ページはあくまで、
1:07:21	断層モデルの形状を踏まえるよという、オクまで方針設定のは、方針だけの話なんで、
1:07:27	いいですけど、ちょっと後にですね、具体説明のところでもそういうのが見えるようにしていただきますと。
1:07:34	ということです。
1:07:36	次が、
1:07:39	12 ページで、
1:07:44	これ何でしたっけ。
1:07:48	これはですねあれこれ地震動応答スペクトルの地震動評価個別の地震動評価ですよ。
1:07:54	あの時の地震規模ってあれこれ申請、これも申請時から変わってくるんでしたっけね。振幅包絡点とか、
1:08:01	事故、茂木自身が作る時、
1:08:05	の話だけではなくてももとの地震動評価。
1:08:10	応答スペクトルの地震動評価。
1:08:13	Ss1 作る前の
1:08:15	耐専の入れルー地震規模自体を、もともと当初申請から個別脳地震動評価、去年の、1 年前は半前ぐらいですけどね。
1:08:26	あの段階での時にもう変えてるんでしたっけこれ。
1:08:31	中部電力の岩瀬です今 12 ページで書いている地震規模の設定方法自体については、もう
1:08:40	プレート間地震の地震動評価の審査の最後のまとめの段階ではもうこの方
1:08:46	でいます。
1:08:47	当初申請の時代っていうか最初に私、我々が出した段階では、
1:08:54	M8.5 を超える地震動評価結果は、耐専で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:59	書いて、ただ、さすがに 8.5 を超えているので、参考扱いと
1:09:05	地震規模の所、最大規模を応答スペクトルで使える最大規模を設定する というよりは、どれを参考にしてどれを、
1:09:14	正式な評価とするかというものをやってたんですけども、ちょっと先行 サイトとか、
1:09:19	の審査の結果も踏まえまして、またコメントでプレート間地震の地震規 模のところを、どう設定したのかきちんと説明しなさいというふうなコメン トをいただいたときにちょっと再整理をさせていただいて、
1:09:34	今のように、3.11 地震の時の地震規模の話も、一緒に検討して、
1:09:42	それで 8.5 で設定することでいいだろうという形で、今
1:09:47	です。
1:09:52	うん。ちょっとね、そこら辺がね、わからなくてこれ見ると本当に当初申 請M9 だったやつを何か 0.5 割引きましたみたいに、
1:10:00	いえるし、こうなんか審査会合 745 回とかって書いてあるんですけど、
1:10:05	なんかあんまり別にそのときに、いやこういうと言われたんで引き下げ ましたみたいにですね。
1:10:10	書いてあるけど、まあそういう意図じゃないと思いますよ。ですけど何か こう、会合の通りのみでも別にこちらから何かM9 やり過ぎだみたいなそ んな議論をしてるわけでもないので、
1:10:20	ちょっとね、ここわあ、
1:10:22	なんか金もわからないし今の話だと、一応ノダを超えてしまってるものは 当初も何か参考扱い宙ぶらりんの扱いだったものを、
1:10:32	整理しましたっていうんだとすると、そんな経緯も全くわからない。
1:10:38	どうしたもんかな。規制庁の名倉です。
1:10:43	このところが、
1:10:45	今まで何か審査会合で何か議論をして、決定事項とかあるわけでない んであれば、
1:10:52	改めてですね。
1:10:55	既往の審査での知見がどういうものであったとか、
1:11:00	それから、どういう理由で、もしくは根拠でこういうふうにしたかというところ の内容をちゃんと説明していただきたいなと思いました。
1:11:10	特に 12 ページの、
1:11:13	地震規模の設定値は、
1:11:15	東北地方太平洋沖地震の観測記録にモリモトン。
1:11:20	において、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:22	Mw8.2 から 8.3 程度であることっていうのは何も、
1:11:27	引用していないので、
1:11:30	この根拠は何なのかって全くわからないし、745 回審査会合の話も何か 言っただけど、何言ってるのかさっぱりわかんなくて、
1:11:39	そういう意味で、今回、どういうデータを知見をもとにしてどういうふうな 判断をしたのか。
1:11:48	その考え方をちょっと明らかにして欲しいなと思いました。
1:11:54	断層モデルはを重視するとかって言ってるん。
1:11:58	それと比較をしていると思うんだけどそこら辺、
1:12:02	どういうデータをもとに、
1:12:05	そのような方針にしたのかというところ。
1:12:09	を、ちゃんと説明をしていただきたいと思います。以上です。
1:12:19	中部電力の岩瀬です。
1:12:22	65 ページを
1:12:25	見ていただきたいんですが、65 ページの左側の下に、
1:12:30	東北地方の地震の距離減衰式の
1:12:37	による地震規模の検討の話を書いていますちょっとこれ以前説明したと きよりも少し小さめの図にできてしまっていますけれども、
1:12:47	こういったデータに基づいて、当時M8.5 で、
1:12:53	妥当だろうという説明をさせていただいて確認をさせていただいているとい うものですがけれどもちょっと、今ご指摘いただいたように、その時同士、 どういうデータに基づいて、
1:13:04	もともと、
1:13:05	どういうものだったのがその時どう変わってるのかとかいうことが、確認 できないという、
1:13:10	だと思いますのでちょっとその辺、
1:13:12	補足に入れるか何かどうするかちょっとまた考えますけれども、
1:13:17	わかるように、の説明をしたいと思います。
1:13:25	長の名倉です。
1:13:29	65 ページの左下の図っていうのはこれ中部電力が提示した図なんです がこれまでの会合で、
1:13:36	あそこでちょっと確認させてくれ
1:13:39	中部電力の岩瀬です左下の 2 地震はこれ他のサイトさんも参照されて ますけれども当社が内閣が出してる検討結果を引用する形で、
1:13:51	これ今ちょっと少し、図のスペースの関係で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:56	M8.2 と 8.3 の、
1:13:59	ものしか載せておりませんが、ちょっと 8.3 を超えたものとかも含めた、
1:14:04	の検討したものを示し、
1:14:07	イデ、
1:14:07	当時御説明しております。
1:14:12	規制庁の名倉です。
1:14:15	いずれにしても補足とかじゃなくてこれ根拠とするんだったら、
1:14:19	ちゃんと本資料の中で説明してください。
1:14:23	論地として、根拠として必要であれば、
1:14:26	そこら辺がちょっと、
1:14:27	よくわからないので、何を根拠としてどういうふうな設定にするのかっていうところの論理をちょっと、
1:14:34	はっきりさしてください。以上です。
1:15:11	はい。
1:15:12	ぜひお願いします。
1:15:14	これは内閣府 2012 ってこれあれか内閣府の南海トラフの内閣の南海トラフの検討で、
1:15:21	こういうことが言われて、こういう、そこでもこういう話言われてますっていう。
1:15:27	をユフです。
1:15:28	東北地方代表地震時どうだったっていうかそれをもとに内閣府が南海トラフで、
1:15:33	の検討で、
1:15:34	使ってるのかなこれ、何か後ろの参考文献見ると内閣府 2010 南海トラフの巨大地震モデル。
1:15:41	検討会中間取りまとめ、
1:15:44	ということですね。あと、
1:15:46	今のうちにわかったら教えてもらいたいんですけど、一応、
1:15:49	これって一、50、65 ページの図ってこれ大体 100 何キロぐらいからだ。一応これだから、観測記録が当然、
1:15:59	取れてるのは、
1:16:00	そんな近いところなら取れるわけがないので、これは何キロ 10 キロ 20 キロ 394、
1:16:07	50 キロぐらいから、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:16:09	取れていて、当然それに近いところは一応ガイソウしてこう線を引っ張ってるっちゆうことですよねこれ。
1:16:16	一応す。
1:16:17	浜岡と、
1:16:19	一応南海トラフとの位置関係だと、このXeq136 は当然ながらその範囲内に入ってると思うんですけど、さすがに外れて、
1:16:28	いるようなことはないですよ。
1:16:33	ちょっとそのなんか相場感だけ教えといてください。
1:16:35	中部電力の岩瀬です。当然ですけども東北地震で記録がとれてる範囲内では、
1:16:42	浜川の距離の、
1:16:44	記録は当然ありませんので、
1:16:46	これだけで、
1:16:50	8.5 の話って言うてるのは限界があるのは理解。
1:16:59	でもそんな値、近い、
1:17:03	南海トラフのプレート間と浜岡と、
1:17:06	の距離ってそんな近く、
1:17:08	そんな近くだったんですけど
1:17:10	一応、
1:17:12	相手もこれなんであくまで 50 キロから 1000 キロぐらいのところの記録で、
1:17:17	取れていて、それより短いところがあるのか知らないんですけど、
1:17:22	こうなんか一応ガイソウ施設も引っ張ってるように見えるんですけど。
1:17:26	そうするとその御社の
1:17:29	サイト登校なんか震源の位置関係って、
1:17:32	いや当然ながらこのガイソウしてるところに入ってるのが一応記録が取れ、記録がとれてるの 50 キロから 1000 キロの範囲内。
1:17:40	今日全部のケース入ってましたっけっていう。
1:17:43	大変相場感だけなんですけど、
1:17:50	極端な例言いますと例えばですよ、なんかいや 200 キロから 300 キロぐらいでとれたデータをもとに何か式を引きましたって言って、
1:17:58	ヤマガタアカシ使おうとしてる先のところでは同じような、震源と観測点とかサイトの距離関係ではなくて、
1:18:07	5 キロが 10 キロ、20 キロ 30 キロぐらいの距離ですって言われると、そういうタナベから借りてきましたって言われるとはてなというふうに、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:15	素人感覚です。
1:18:17	とはてなマークがつくんですけど、
1:18:20	東北地方ではこうでした。その知見を我々の場所にも
1:18:25	そのまま使えますっていう時に、そのなんか適用性みたいな話っちゃうのは、
1:18:31	何か特にサイトウ理事なるではやられてるんですか。
1:18:35	7日もしくは何かとりあえず内閣府が南海トラフの検討で使ってるからいいだろうという話なのか。
1:18:43	いやもうそもそもそんなもの関係なくて、いやもう311の時そうだったから適用できるというふうな話なのか、ちょっとそこら辺もわからなかったんです。教えてもらっていいですか。
1:18:53	はい。中部電力の岩瀬です。この東北地方太平洋沖地震における距離減衰式の検討そのものについては、ここに書いてある通りで、
1:19:03	これ以上、当然データに限界があることがわかっていますので、これ以上の検討をこれで行っているものではありません。
1:19:11	一方で、
1:19:13	これ
1:19:15	規模が大きくなってくると、ある意味断層が近づいてくると同じ状態になるので、近いところで頭打ちが見られますという話を
1:19:27	一つ、検討してるものだとは思ってるんですけども、そういった話も含めてノダの方法の検討の限界が8.5。
1:19:37	2名、8.5になっているというところも、あともう一つ合わせまして、8.2から8.3でやってるところもあるんですけども、
1:19:47	やや保守性は見るべきだろうということで、ノダの8.5まで、
1:19:52	は、浜岡としては考慮しようということで、これ今8.5にしたと。
1:19:58	いう
1:19:58	考え方でやって後
1:20:01	以上です
1:20:04	はい。すいません、このぐらいにしときますか。いずれにしても、
1:20:08	一応、応答スペクトルの地震動評価の時の地震規模の時に1回説明してますということかもしれませんが、一応今回模擬地震動の作成、
1:20:19	その時に、
1:20:20	御田も同じような考え同じ知見を持ってきてそれを根拠にすることなんだと思いますので、こうであれば

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:28	過去に同じ、別のところで同じ説明を 1 回してますっていうのは何か増幅のときに見たような話ありましたけど、
1:20:35	そっからここを根拠として出すならそこはしっかりとつけてくださいということで、ちょっと今そのぐらいにしときましようか。
1:20:42	で、
1:20:44	次がですね。
1:20:46	ちょっと断層モデルの選定なんですけど、
1:20:53	一応概要でいくと 13 ページで、
1:20:57	162225 っていうのはこれ全部の断層モデルの評価結果いろんなケース含めてですよ。
1:21:07	そこからSs-Dを上回る
1:21:12	この上回ると言ってるのワーウィーン越冬N-S。
1:21:19	NSEWアップダウンUDのどれか 1 個でもあったケースっちゅう意味でいいですか。
1:21:27	電力の岩瀬アノン、ご指摘いただいた通りです。
1:21:32	はい。
1:21:33	とすると逆に言うところに残ってないものは、水平用下 3 成分とも、
1:21:38	Ss1DSs-DをSs-Dを下回ってました、すべての周期。
1:21:46	それって、
1:21:48	いや別に
1:21:50	信用しないわけじゃないんですけど、当然
1:21:53	こんな図面じゃなくて多分デジタル値できっちり見てるんだと思いますけど、
1:21:58	それって、
1:21:59	何かぎりぎりとか、ちょっともう少し、
1:22:03	この部分拡大してみたいな。
1:22:06	わかるやつありますか。逆にその選んだやつは、これが残ってます上回ったやつはこれですってからであるんですけど
1:22:13	下回って落としたやつ。
1:22:16	これSSEDと下回ったやつだけ。
1:22:20	隠して、確かに、
1:22:23	下回ってこれは落としてもいいですね。
1:22:26	とか、ぎりぎりのやつは拡大してちゃんとこれ下回ってますよって。
1:22:30	どっかありますか。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:31	内陸地殻内と金だけだったら 145 とか多分この辺なのかもしれないですけど、
1:22:39	あと中部電力の岩瀬です。
1:22:41	先行サイトの事例も見てたんですけども、アノに多様な図を入れたつもりなんですけど、ちょっとプレート間地震のケース数が、当社の場合、多いので、
1:22:54	ちょっとこのままだと確認。
1:22:57	できないというご指摘かなと今承りました。
1:23:01	ちょっとパッと今思いついたのは少なくとも、
1:23:10	Dを上回っていないという
1:23:13	等、
1:23:14	Ss-Dの比較図は今載せて、
1:23:17	おりませんので、数が少なく、ければそれでも確認いただけるんですけどもちょっとプレート間地震か数が多いもんですから、
1:23:26	少なくとも、まず超えていないものが本当に超えてないかが確認できるつをちょっと載せるということはまずしたいと思います。その上で、
1:23:38	そのぎりぎりのところ数が多くてわからないようなところの、
1:23:43	拡大図が要るんじゃないかというご指摘についてはちょっと検討させていただいて、必要な図をつけたいと思います
1:23:51	以上です
1:23:55	はい。13 ページとか冒頭のところでそんなものをつけるとぐちゃぐちゃになってしまうので、
1:24:02	でもやね手順として、
1:24:04	最初の、
1:24:06	一次スクリーニングというかこの 6277 を残す段階のところは、別に何か特殊なことをやってるわけではない。
1:24:15	で、
1:24:17	宗大上で今度はそのからさらにということ。
1:24:25	これもプレート間いずれにしろ、かなり数残るんですね最初の段階で、
1:24:34	ここからのね、62 から 2377 から 22 って交渉こまれていく過程が、
1:24:42	これ後に行っても手順というか、
1:24:46	最終的にはその上回ってる中で、最大のものを選んでるっていう。
1:24:53	ふわっとしたままの考えはわかるんですけど、
1:24:57	これは、
1:24:59	どういうふうになるんですかねこれ内陸地殻内の三つの中から、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:04	絞り込もうとして二つでしたとかですね、プレート間の 52 個 19 日です。
1:25:10	ね海洋プレート内の 7 を、
1:25:13	海洋プレートに絞り込みましたっていう話なのか、この 60 人を全部で何かと言ってて、23 が選ばれているのが、
1:25:22	ちょっとそれどうというやり方でやってるか教えてもらっていいですか、これ。
1:25:28	電力の岩崎です。岩瀬です。今、やっているのは個別ごとにやっているわけではなくて 62 ケース。
1:25:35	全部合わせたものの中から、
1:25:38	各周期で一番大きいものをちゃんと選んでこようという形で選んでで、結果としてそれぞれの地震タイプごとに、何%選ばれてるかって言ってるのを今、13 ページとかに記載して、
1:26:26	最後、全部でと五つでも、結構いろんな周期で $S_s - D$ 超えてますよね。
1:26:34	ゴトウでシンボるんです。
1:26:36	いや多分何か
1:26:38	使えます。
1:26:39	ちゃんとある条件で、これだけ残せといえれば正しい答えが出てきてるのかもしれないですけど、何か目で追っていくとかなりマイクになるんですが、
1:26:48	うん。
1:26:54	これは、
1:26:55	別に何か何かある特定の周期体と比較してみてもかそういう話でもないんで、
1:27:04	中部電力の岩瀬です特定の周期体というよりはデータのレベルで、それぞれ、
1:27:12	その周期ごとに最大のケースが選ばれていること。
1:27:15	確認してってますので、
1:27:17	やる方法としては、13 ページみたいに $S_s$ 選ばれたもので、赤と黒の線。
1:27:26	要は $D$ と赤の線。
1:27:28	を超える。
1:27:30	周期のものの波が他にないことは、デジタル値としては確認して、
1:27:38	はいはいはい。だから $S_s - D$ があって、左周期の短周期側から長周期側に順次、
1:27:46	ここのこの、この 0.020 点。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:49	0300 じゃないと多分、実際はもっと間も含めてでしょうけど、
1:27:54	うん、Ss-Dを上回っ。
1:27:57	テイルでその中でこの周期で最大のものが、
1:28:00	62 個のうちどれら、次もうちよっと、
1:28:03	次どれだ。次どれが鶴リーダーって言って 1 回でもヒットすれば、それが選ばれてるっていう。
1:28:09	機械的にやってるわけですね。はいはいはい。
1:28:12	中部電力の湯浅です。ご指摘の通りで 13 ページのニイズにあるように、選んだ結果のものをどっかの周期で飛び出してるものがないようにと。
1:28:23	いうSsLをという考え。
1:28:26	でやってますので、
1:28:27	手順としては、作業としてはっていうんですかね、その周期ごとにちゃんとトップな
1:28:34	トップの応答ちゃう、示すものを選んでるかっていう点で作業をし、
1:28:44	やり方はわかりました。
1:28:48	うん。
1:28:57	そうです。はい。
1:29:01	ペースト。はい。次が、すいません。
1:29:04	あまりやると時間がなくなってしまうか。
1:29:07	あとちょっともう 1 回、これも欲しいんでエース免震なんですけど、
1:29:15	これは 15 ページからですよ。
1:29:19	これの手順ワー
1:29:25	手順の 1 は単純にこれガイドを踏まえてなの実際にどういう免震構造のDTの名刺を作ってるかあまり関係なくて、
1:29:34	これ単純にとにかく 2 倍、
1:29:37	までのこういう収益の二倍まで着目しますっていう。
1:29:41	はい。
1:29:43	次、ガー、これはプレート間の評価をやっているのという話で、
1:29:50	ちょっとこの図のですね、右はがあまりイメージが、
1:29:54	いかないんですけど、
1:29:56	これそれぞれの、
1:29:58	何か三本ありますよね。そうっす。
1:30:01	これは、
1:30:03	何色だこれ、一番でかいのはこれがあるですか、何かSSE。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:30:10	D、Dをイメージすればいいんですか。
1:30:12	青が、
1:30:18	ソネなんかあんまりこの着目する地震の違っているのはあまりイメージがぴんとこないんですけど、
1:30:24	中部電力の岩瀬でちょっと補足させていただくと、応答スペクトル報告書書いてますけど、基本的にある地震の地震動の
1:30:35	応答スペクトルの特徴って書いてるつもりでして、
1:30:39	赤で書いているのが南海トラフのプレート間地震が敷地に近くあるうちのような場合は、全周期体のトップがこういう赤い線になりますよ。
1:30:49	一方ちょっと例えばとして、箱書きで小さく書いてございますけど下の方に、
1:30:56	M7 クラスの地震で、敷地に近いところで短周期で決まるようなサイトがあると、多分青のような形のレベル感じの地震動レベルの特徴になって、
1:31:09	距離によっては、ちょっとM9 クラスの地震がやや離れた位置に、
1:31:14	あたりすると、そっちの方が長周期で飛び出て、
1:31:17	可能性があるので、
1:31:18	短周期だけに着目していると、こういった緑の線かな、緑の線で書いたものが抜けるかもしれないので、そういったものをちゃんと確認しなさいという意味で免震のガイドの方で、
1:31:30	距離を離れているが地震規模の大きな地震を選定可能性を確認しなさいとされていると我々とらえましたんで、それをちょっとわかりやすく図にするとこうなるんじゃないかということで、書かさせていただい
1:31:45	ん。
1:31:51	あんまり
1:31:53	浜岡みたいな埼玉もこういうケースはないんですけど、
1:31:58	なんだろうな、プレート間が遠いようなサイト。
1:32:03	でも、
1:32:04	これは、
1:32:06	内陸地殻内の地震動評価でも一応、周期 5 秒までの話ですよこれ。
1:32:13	だったら何かこういう、今のやや長周期の影響が大きい地震っていうものは、
1:32:19	これはそういうサイトがあればそもそもそういうサイトではこれ基準地震動になってるような気もするんですけど。
1:32:26	ただ、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:32:27	ただ、周期 1 秒とか何秒かわかんないけど超やや長周期側で、
1:32:33	は当然、内陸地殻内の地震動評価よりも、
1:32:38	影響が大きかったとしても、
1:32:43	さらにこれを上回るような、
1:32:45	ベッドの
1:32:47	基準地震動を作るっていうそういうイメージでやってんですかねこれ。そうなんでこの短周期も含めて、
1:32:54	すべて去らないと、別の地震動を作りますよというようにちょっと見えて、
1:33:00	いるんですけど、この説明。中部電力の岩瀬です。ちょっとフローのところが①②という感じで順番で書きましたが、この①と②が、
1:33:11	ちょっとやや並行的に検討する感じなのが、
1:33:15	実態でして、
1:33:17	ガイドとかを見ていったときにこの②のやや長周期に着目した検討用地震の選定と地震動評価の確認が 5 秒以内であっても、
1:33:27	イチローせかあの説明をしなきゃいけないところをちょっとどこに入れ込むかで悩んだんですけれども、これはアノ 5 秒以内だったらやってあって当たり前なことでもちゃんと確認をしてご説明するという趣旨で、
1:33:39	浜岡の場合は入れてることなってるかなと。
1:33:42	ちょっといいですか。
1:33:44	規制庁の名倉ですけど。
1:33:47	これまでの審査でやってきた古藤は、
1:33:52	結構ちゃんとやってるように私は思っていたんですけど。
1:33:56	資料は参照しろと言ってるから参照し素直に言ったんだけど、
1:34:04	資料でいくと 41 ページ。
1:34:08	P31 参照で、
1:34:11	詳細は 1041 回の 2-2-2 を参照しろと言ったから、
1:34:15	見に行ったんだけど、その見に行く前に 31 ページを見ると、
1:34:20	プレート間地震の、
1:34:22	ところの四角書きのタカダところで南海トラフで発生する地震で、内閣府 2015、
1:34:28	農中長周期震度の、
1:34:31	波源も、これ、考慮しているんで、何かやってるなと思って、既往の資料 2-2-2 っていうのがですね 1040 時間。
1:34:40	これ見に行ったら、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:34:42	これ何かやってること違うんですよねこれ言ってることと。
1:34:45	やや長周期に着目したといったときに着目するちょ取やや長周期を
1:34:52	かなり限定しちゃってるから、それ限定してないんですよね今までやってる内容。
1:34:58	では長周期で 10 秒とか、そういったところも含めてちゃんと全体を見て、
1:35:04	2 内閣 2015 よりも保守的な
1:35:09	同等か保守的な評価。
1:35:11	をちゃんとやるような形で、
1:35:14	波源を内閣府 2012 の方にしてるっていうロジックになっているので、そういう意味で、私はちょっと素直にこのところは、
1:35:24	着目する周期ってパブコメの何か内容を重視して何か無理やり限定してるんだけど今までやってることは別に 5 秒までで比較してるわけじゃなくて 5 秒までの比較だったら、説明になってないような気が逆にするんだけど、
1:35:39	であるんだったらちゃんと今までやってきたことで、5 秒から 10 秒のところのすごく大きなピーク。
1:35:46	があるところも含めて、
1:35:48	長周期地震動に関しては内閣府 2015、
1:35:54	No。
1:35:55	越冬者に対しても一応比較をちゃんとした上で、
1:35:59	敷地近傍のアスペリティの影響が非常に大きいということも踏まえた地震動評価も実施した上で、
1:36:06	内閣府 2012 を使っているのであれば、そういったところをちゃんと説明をして、ただ単に、
1:36:16	免震のこういう周期が 2 秒だから、2 倍ぐらいのところまで見ればいいので、そういう意味で、耐震で耐震設計で一応考慮した。
1:36:27	策定した地震動をそのまま採用すれば良いついていうロジックだけであって着目する周期を何か無理やり最初から限定して、
1:36:35	そこで比較をしようとしたら逆にやってると違うので、
1:36:38	そういう意味で少しロジックはですね。
1:36:42	今までやってきたことをちゃんと、
1:36:44	説明できるようなロジックにした方がいいんじゃないかなあという気はちょっとしました。
1:36:49	やっぱり、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:36:51	重要なのは 1041 回でした説明した内容って、非常に重要で、これがやっぱり、ちゃんと説明されていた方が私は、
1:37:02	説明として、何ていうかな根拠として、
1:37:08	何て言うのかな、ちゃんと説明してることになるんじゃないかなというふうに思いました。ただ単に引用するだけでは、
1:37:14	理解されないの、そこはちゃんと引用した上でちゃんと説明した方がいいんじゃないかと 41 ページのところ、
1:37:22	というふうに思いました
1:37:23	私からは以上
1:37:27	はい。中部電力の岩瀬ですご指摘ありがとうございます。ちょっと 41 ページ辺りとか、
1:37:36	他もそうかもしれませんが、
1:37:39	前のところのお話もそうでしたけれども企業で出した。
1:37:43	資料とかも、
1:37:45	全部載せるということではないと思いますけれども、ここで長周期
1:37:51	やや長周期も含めて、
1:37:53	ちゃんと内閣 12 が大きくて選んでるというあたりを、これ当然 5 秒までに限定して、当時
1:38:00	話をしたわけではありませんので、
1:38:02	そこら辺
1:38:04	説明を加えるようにしたいと思います。
1:38:18	はい。
1:38:20	そうすると、ニイツ 10 分、
1:38:24	大分概要でも何かいっぱいではあるんですけど、
1:38:27	概要のところまで、最後ね 17 ページはあんまりこう、我々の持つてる実態のものがこうなってますっていうだけなので、
1:38:36	個別の今の免震のところも後の説明はこの後、確認しますけど、とりあえず 1067、17 までかな。
1:38:46	部分で何かありますかほか、
1:38:49	いいですか。
1:38:51	なければちょっとあまり細かい結果のところは、はい。ありがとう。
1:38:57	規制庁佐口ですけど。
1:39:00	一番冒頭ですね、鈴木さん、鈴木からあったように 5 ページとか、
1:39:06	やっぱり 10、
1:39:09	5 ページか、これもそうなんですけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:39:14	基準地震動の策定ってやっぱり今回初回になるわけで、
1:39:19	そういう意味でもですね、
1:39:21	まず、
1:39:24	基準規則、
1:39:26	どうということが要求されていて、
1:39:29	ガイドではどういう記載が、
1:39:33	それに対して、
1:39:35	御社はどういう検討なり、
1:39:38	をして、今の評価結果になっているのかというところがですね、やっぱり冒頭ですっぱり抜けていて、
1:39:46	5 ページの花C、ちょっと戻ります。
1:39:49	5 ページの一番上って、まず、
1:39:52	これ集合は、
1:39:53	何なのか、誰なのか。
1:39:55	わからないですね。
1:39:58	一番最初の〇後、策定する。
1:40:01	書かれてますけど、御社がこれ策定するのかな。
1:40:07	をもって次を読んでみると、
1:40:09	次の丸の最後、策定されていることを確認
1:40:15	これは誰が確認するんですか。
1:40:18	しかも、策定されていることを確認するということは、
1:40:21	これは別の市、下の施設は別に基準地震動策定、御社がされるということでもよろしいですか。
1:40:30	違いますよね。やってること
1:40:32	でこれは多分、
1:40:33	ガイドなりに書かれている文言をそのまま書いてるだけなのかもしれないんですけど、
1:40:38	こういう、
1:40:40	解釈別記でこういう要求があってガイドでこういう、
1:40:43	記載が当然あるのでね、浜岡の真ん中のところ、特徴は、これそれに対してですね。
1:40:50	だから、こういうふう基準地震動を策定するという方針を、
1:40:56	にしますと、そういうまず流れなんじゃないすかね。
1:40:59	ていう
1:41:01	どうしても解釈とかガイド等の対応関係が

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:41:05	今の資料だと見えないという
1:41:08	これは、
1:41:08	16 ページもずっと 15 ページか。
1:41:11	15 ページも、
1:41:12	順番は検討の順番はこう書かれてますけど、
1:41:17	これって免震ガイドに本当に書かれてることなんです。
1:41:20	というですね。
1:41:21	①とか②、
1:41:23	④とか、何か拾ってくればいいのかもしいんですけど、
1:41:28	何か丸さんって本当に、
1:41:30	免震ガイドって、
1:41:33	これ書いてましたっけみたいな
1:41:37	とかですね。
1:41:39	何かちょっとその辺の対応関係
1:41:41	むしろこれは、
1:41:42	解釈別記 2 の方なんじゃないですかとか、
1:41:48	ちょっとその辺の関係がわからなく、
1:41:50	もうちょっとと戻りますけど、
1:41:54	基準地震動をどういうふうに策定しましたかっていうので、
1:41:59	やっぱり幾つかありますよね。
1:42:02	51 ページとか、
1:42:05	御社こういう方針で策定しますと言ってますけど、
1:42:10	これって、
1:42:12	解釈別記 2 とかガイドと、
1:42:14	この関係で、
1:42:15	どうなってるんですか。
1:42:17	13 ページもそうな
1:42:20	というのがやっぱり見えないんですよ。
1:42:22	だからやっぱり初回なので、
1:42:24	ということもあるんでやっぱりそこはですね。
1:42:26	今解釈別記 2 でどういうことが要求されていてガイドではこう記載されて いてだからこういう、
1:42:32	方針、こういう検討。
1:42:34	行って、だから結果としてこうですよ。
1:42:38	流れでですね、やっぱり説明して、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:42:41	いただきたいと私は思うんですけど、それちょっとごめんなさい私の感想だけなのかもしれないので、
1:42:47	実際にどうされるかは、
1:42:48	ちょっと考えていただければ、
1:42:51	思いますんでよろしくお願ひします
1:42:55	中部電力の岩瀬ですご指摘ありがとうございますちょっとコメントいただいたものを含めて、
1:43:00	先ほど少し出ましたけど、戸次の話とか少し話が飛んでるところも、
1:43:07	参照するところが飛んでるところをどうするかなんてなかなかちょっと悩ましかった
1:43:11	そこも含めて、少し検討させていただきたいと思います。ありがとうございます
1:43:26	続いて、ちょっと免震のところの延長線上で、
1:43:31	先ほど話があったような例えば、院長の四十三、四十とかこの辺り飛ばすんですけどね。
1:43:38	国交省の、
1:43:41	井清則、
1:43:42	とも比較のところとかを見ていくと、これ。
1:43:47	もともと確かに免震ガイドも、あれは、いわゆる 1000 台あり、面積ができる前ですけど、
1:43:54	何かSsLみたいに、
1:43:57	応答スペクトルで一つ、長周期免震用の基準地震動をいっぱい作り出すよという、
1:44:06	ある程度イメージで別途作るんですかね、別途作るからには、何かいっぱい作りましょうよっていう前提であれ書いてあるので、ガイド自体はですね、
1:44:16	いう関係もあってこの 46 ページのところ見ると、
1:44:21	御社は何ていうか、免震設計に用いる基準地震動、免震設計にも用いることができる、基準地震動というのは、
1:44:33	これはSs1、
1:44:35	B、
1:44:36	だけを指しているのか。
1:44:39	中田当然長周期がSSCで結構超えてるやつ残っちゃってますよね。
1:44:44	それも含めて何か断層モデルのエンドウも含めて全部で何%残ったかあれですけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:44:50	あれらも含めて、
1:44:52	それを使います。
1:44:55	それがあるからいいんですっていう話なのか、いやこのSs-Dですこれです。
1:45:00	これが、いわゆるガイド、ガイドで必要に応じて作る必要がないってのはSs1Dがあるからですか。
1:45:09	ちょっとそれどっちですかね。
1:45:13	中部電力の岩瀬です。免震設計用の地震動としては1Dだけを当然考えているわけではなくて、他の断層モデルも含めた基準地震と、
1:45:24	免震設計に用いるものなので、ちょっとここは誤解を与えるかなと思いますけれども、46ページの、この辺の比較は、応答スペクトル法のSsの話と、あと基整促波
1:45:37	交渉の基整促波の話は、Ss-Dの比較で事足りている。
1:45:41	ていうだけの話ですので、
1:45:45	少なくともDで、
1:45:46	十分安全側の評価になってるってことを説明しているだけですのでちょっとそこら辺、ご指摘いただいたことも踏まえてどういう書き方をすればいいか
1:45:55	ありがとうございました。
1:45:59	はい。
1:46:00	そこがですね、この辺の話になると、何か継続時間のね応答スペクトルのものと、
1:46:06	なんていうか、継続のものがあっても一応これ応答スペクトルなので、
1:46:11	その継続時間確かに断層モデルと何か比較してどっちが長いんだっちゅう、別にそれを見せたいわけでも何でも無いと思うんですけど。
1:46:19	とこう。
1:46:20	ここは何ですか。通す時継続時間の方はこれは応答スペクトルの方で見えていて、これ断層モデルの方については、
1:46:30	比較対象逆に言うとないのかな。
1:46:34	ていうことですね。
1:46:36	そもそも、
1:46:38	断層モデルの結果自体が、
1:46:41	計算時間長くする、できるかっちゅうと、多分それは無理な話なんで、
1:46:46	ちょっとそこら辺もんでちよっとう、
1:46:50	免震に用いるものと一応断層モデルも含めていてSs1Dと、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:46:55	それを長周期が
1:46:58	側でそれを超えている断層モデルはもう、
1:47:01	含めて、
1:47:03	いるというのはまあまあわかりましたので、
1:47:06	ちょっとね説明を見ていくと、所々45 ページはもうこれは単なる漫画な んで、少し別にこの漫画を直すという意味ではないんですけど、
1:47:17	もっとこうなんかSs1D、Eの一派だけを考えて説明してるのか、断層モ デルも含んでるのかっていうのは、
1:47:25	そこはわかるようにしといて、
1:47:28	ください。
1:47:29	その上で一応規制則との比較はこれだから、同じ応答スペクトルSs1D で比較してその妥当性というか十分それを上回ってるのを説明するって いうそういう方針なわけですね。
1:47:41	その方針に対して、経営企画した結果こうですということで、
1:47:46	ありますちょっとそういうところもですねわかるようにしておい。
1:47:49	ください。
1:48:03	はい。
1:48:04	で、あと、それ以降のいわゆるルー間SSETVの結果と断層モデルの細 かい説明ですよ。
1:48:13	この辺りのところは、まずはSs-Dを、断層モデルの評価結果も踏まえ て、
1:48:20	どういう配慮をして、
1:48:22	作ったんですかというのを、まずきちんと説明を
1:48:26	してもらった上で、
1:48:28	その配慮したこと。
1:48:30	というのは当然ながら配慮してSEDdSEDを作っているような、例えば この周期はこういう配慮して、引き上げましたというたら、
1:48:40	当然そんなところで断層モデルの地震動評価結果で越えられるわけが ないわけですよ。
1:48:45	なんでちょっとそこら辺を追認する形で、
1:48:48	例えばさっき言ったように0.02のところを上げましたって言ったら、 当然断層モデルの地震動評価、断層モデルの基準地震動で、その周 期でSs-Dを超えるものはないわけですよ。もともそういう配慮して 作った。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:49:03	なんでそこは裏を返すような形で後で確認したいので、ちょっとまずはどの断層モデルの表、地震動評価結果との比較ってどういう特徴があるんで、こういうふうにSs-Dを作りました。
1:49:15	その説明をきちんと聞いた上で、
1:49:18	その裏返しで、確かに
1:49:22	Ss断層モデルとして変なものは、
1:49:25	残ってませんねと。
1:49:27	何か
1:49:29	Ss-Dを作るときの方針となんか、相反するような残り方はしてませんかっていうのは、
1:49:34	ちょっともうちょっとそこは細かく見させてもらうので、ちょっとまずはその考えを、
1:49:39	後ろに書いてもらってからですね。はい。
1:49:42	思ってます。あとは、中部電力の今のところで断層モデルを配慮して、アウトスペックと設定してる。
1:49:53	ところは全体の傾向を見て反映しているので、このある周期で、
1:49:59	反映したから必ず超えないとか、ちょっとそういうふうなことを考えて設定しているものではないので、そこも考え方がわかるように記載したいと思いますのでよろしいですね。なんか 0.02 のところは、何か確実に超えるを上回るように、
1:50:13	なイメージであの漫画は見てみたけど、
1:50:16	そういうもんでもないわけ。
1:50:17	そういう形ではなくてその傾きというか、その形状を、を合わせるなんてかすそのような特徴を反映したものでどんどんの周期を必ず上回るようになっていう、
1:50:28	考え方で設定したものではありませんのでちゃんとわかるように、
1:50:32	ありがとうございます。
1:50:34	はい。
1:50:35	お願いします。
1:50:39	あとは、
1:50:40	定せずの方は一応比較のナカマこれあんまりね数が多いわけじゃないんだけど、
1:50:46	90 ページから、
1:50:54	もう、
1:50:57	結城はこういうものなのか、確かにちょ宗教周期側ね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:51:02	さすがに、プレート間ベースに作ってるものと、
1:51:05	逆にならんかもしれない。
1:51:08	一応これは、質
1:51:13	増幅なしのSS
1:51:16	tを超えるものは、
1:51:20	これは標準応答スペクトルの方が、
1:51:24	うん。
1:51:24	短周期側で特に上下ですかね、これは超えると。
1:51:29	それが選ばれます。
1:51:33	増幅の考慮は、
1:51:38	倒伏ありのう。
1:51:41	の方ですね。
1:51:43	の方、ワー
1:51:45	これはちょっと待って最後、
1:51:47	96 ページか。
1:51:50	標準を、震源を特定せず、
1:51:54	策定数字新統
1:51:58	基準地震等イセ
1:52:01	これは、
1:52:02	ちょっと待って、最後だった
1:52:05	Ss2 ケース 2 ケースって言うのは、これは標準応答スペクトルで 2 ケースっていうのは増幅ありもなしも両方。
1:52:15	増幅割のSs-Dを、
1:52:18	一部周期で上回りましたっていうのを 95 ページ
1:52:25	中部電力の岩瀬です。ご指摘の通りで青線で書いてある、増幅を考慮してない方の標準応答スペクトルも、
1:52:36	形状が、
1:52:38	ポートスペクトの形状が違うところで、若干超えて、
1:52:42	鉛直動。
1:52:44	ただその周期については、
1:52:48	属する方で、当然持ち上げますので、
1:52:51	当然今の検討フローでやると、増加割の方だけになる。
1:52:57	けども、青い方も、Dを超えてるのはそう
1:53:04	最終的に基準地震動残るのは、結局そこは増幅ありの方だけが
1:53:10	残りますよということではあるんですけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:53:16	往復あれでもあれか。
1:53:18	これは、
1:53:19	応答スペクトルの基づく地震動手法の、
1:53:24	増幅ってあれ何秒、あれどの辺りに間だったんでしたっけこれだからトンガってるところか。
1:53:30	周期の0点。
1:53:32	これが断層モデルの評価結果を踏まえて、応答スペクトルの地震動評価結果で増幅させるところってあるっていう周期か偏る偏るっていうかその、
1:53:43	決まってるじゃないですか。
1:53:44	それとあれですか、標準応答スペクトルのところで、
1:53:50	特徴がある周期がちょっとずれずれてる分だけ、
1:53:53	増幅なしの
1:53:55	標準応答スペクトルにも、この周期幾つが0点。
1:53:59	どこで上回ったんだ、これどこで、短周期が、
1:54:04	増幅なしに負けてるのすら負けてるのって、これはぎりぎり。
1:54:11	ひばりつきおにぎり越えられちゃってるのかな、これ。
1:54:15	中部電力の岩瀬ですちょっと補足させていただくと当然ですけども、
1:54:21	ここで見て青センター河川が差が出てる。
1:54:24	0.5秒、56秒から短周期側は当然赤が勝ってます。基本的に最大加速度で決まってくるので、この辺わかってますけれども、長周期側のところを増幅させてる。
1:54:37	フーリエで増幅させてるわけじゃないので、
1:54:39	計算上の問題で、ちょっとこう、応答スペクトルが目でわからない程度若干逆転してるところが実際にはあって、
1:54:51	長周期側の1秒から先のところで、概ね同等と書きましたけれども、全く一緒じゃないということで、アンリュウは大丈夫です。多分私、標準応答スペクトル同士の話をしてるんじゃないかと、
1:55:05	増幅ありの何かS <sub>s</sub> -Dが、
1:55:08	増幅させてない、標準応答スペクトル2、決定周期はどこです、どこで使ってたんでそれだけだったんですけど、
1:55:20	これ上下か。
1:55:22	中部電力の石川です。上下動の、
1:55:25	0.0。
1:55:27	0.08030203。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:55:33	08 ぐらいのこの辺のところはぎりぎり。
1:55:35	へばりつくような形になってると。
1:55:47	ただその負けてるところの主義って、そうか。
1:55:52	増幅ありだろうが増幅なしだろうがあんまり、
1:55:55	持ちあがらない応答スペクトルの評価結果持ち上がらない周期なんでしたっけ。
1:56:02	中部電力の岩瀬です。基本的にはフーリエで増幅させてるのは 0.2 秒から 0.5 秒ぐらいまでが中心で、大体 0.1 秒から 0.5 秒ぐらいを持ち上げているイメージで持っていただければいいんですけど。
1:56:16	でも、ただ、0.1 秒より
1:56:19	良い、やや長周期側に持ち上げると、0.1 秒位かもうフーリエならいいんですけどでも応答スペクトルだと、その影響が出るので、
1:56:27	少し差が出てくるけれども、その程度感は小さいという
1:56:38	はい。一応、外れてる周期の方でいいですねはいわかりました。
1:56:45	うん。
1:56:52	あとちょっと細かい補足、あとすいません。
1:56:56	補足の 1 を
1:56:59	松原なんですけどね。
1:57:06	これは、
1:57:07	あそこ一等 1 度、これも去年の 4 月 1040 ぐらいのところで一応説明は聞いてて若干、
1:57:14	159 ページみたいに、
1:57:17	最短距離とか、等価震源距離が若干数百メートル、100 メートル数百メートルぐらいの
1:57:23	細かい値、ちょっと近い場合もありえますという、
1:57:27	ていて、
1:57:28	その結果が 161 とか 163 なんですけど、
1:57:36	これ。
1:57:38	ここでほぼほぼ同じで多少の音出っこみ引っ込みがあるのは、まあしょうがないかもしれないし、
1:57:45	最後右肩下がりになってる長式が何か全く影響なさそうではあるんですけど、
1:57:51	ここで今 161 とか、このあたり 163 で捨てるような、
1:57:58	松原の方じゃないですよ。
1:58:01	この辺のものって、こういうケースって、あれ最後、基準地震動の Ss

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:58:08	幾つ位だ、あれに残ってくるようなケース。
1:58:14	パターンの何か断層モデルの評価
1:58:18	それとも、
1:58:19	あんまりこう、
1:58:20	基準地震動に残ってこないような、例えば
1:58:24	内閣府モデル最大、
1:58:26	プラスの地震に基づく方針。
1:58:28	断層モデルって書いてあるじゃないですか。
1:58:31	こういうようなものって、これは、
1:58:34	今日
1:58:36	これ、基準地震動この破壊返しで1から3とか書いてありますよね直下ケースとか、
1:58:41	これって最後基準地震動に残ってくるような部類のものなのか。
1:58:46	中部電力の兵頭です。直下ケースそのものをやっていますので、
1:58:51	一方でSsで選んでるものは、基本的には連動ケース。
1:58:56	これ、この直下に対してもう1個何か足したものが基本的に選ばれてますので、
1:59:01	直で脇アノス直で選ばれてくるわけじゃないですけどもSsに影響しないところの検討をしてるわけではない。
1:59:09	わかりました。これとSs-Dをこう並べてみても、それは、
1:59:16	100になるわけ。
1:59:17	はい。
1:59:25	わかりました。だからそこは比較するのは変なんだな。わからない。
1:59:30	ほど、
1:59:33	これと他の電動等々や、
1:59:38	はいはい。
1:59:39	あくまでこの直下ケース直下のこの場所。
1:59:42	評価結果って意味でやってるわけですね。はい。
1:59:48	まあ、
1:59:49	これは誤差レベル。
1:59:52	特に、
1:59:53	何かと。
1:59:54	必要があるような、
1:59:57	周期があるわけでもなさそうだな。はい。
2:00:00	わかります

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:02	あとちょっと、すみません 12 時ぐらいになりましたんで、
2:00:07	ほか、全体冒頭も含めて全体で結構ですけど、何かありますか。
2:00:18	よろしいですかあれ、ウェブの、
2:00:21	何か田嶋さんの、何かありますか。
2:00:28	本間です。特に大丈夫です。ありがとうございます。
2:00:36	はい。
2:00:40	いいですよ。
2:00:42	はい。
2:00:44	はい。
2:00:47	ということで今回会合としては初回なので、最後
2:00:53	細かい最後何%だとかっていうところよりも、まずは考えですね選んでいく考えとか、
2:00:59	そういうところをしっかりと、説明、そこは少なくとも説明をしっかりと尽くしていただくということで、
2:01:05	もうちょっと概要の方から 2 を見せ詰めていきましたけれども、
2:01:09	はい。
2:01:10	ちょっと私もミスリードしてるような部分もあったりしたので、そういうようなものが、他の日、人は別の読み方をするかもしれない正しく読んでくれるかもしれないですけど、
2:01:21	この辺りはですね、まずは、考えしっかり伝わるような形で、資料の方は、直していただくと。
2:01:29	ということでお願いします。
2:01:33	ただ当然新しく何か解析をしたり、図を起こしたりっていうものアイテム一応あれか。
2:01:42	参考で、
2:01:44	そんな時間かからないですよ Ss 検討で落としたようなものとかを、
2:01:50	参考でつけ、というのが一番最初のスクリーニングで、全周期で Ss-D を下回った。
2:01:56	ものとか、あれですちょっと拡大微妙なやつは拡大。
2:02:00	つけるとか、
2:02:01	そういう話は、そんなに時間はかからない。
2:02:04	中部電力の岩瀬です。ベースにしている図が当然できてますので拡大するとかの作業がそんな時間かからない
2:02:13	はい。
2:02:17	成長の名倉でちょっと 1 点だけ

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:02:20	MW。
2:02:22	8.3MJAマグニチュード 8.5 で振幅包絡線
2:02:27	に変更しました。
2:02:29	言ったときに、
2:02:30	継続時間が 10 十分かどうかということで断層モデルと比較する場合、それは加速度は形で比較しても、差し支えないと思うんですけれども、
2:02:40	47 ページのところの免震のところ、
2:02:43	これを加速度はKD。
2:02:46	主要度の継続時間、共振分か。
2:02:49	で比較してもこれ一なんかあんまり説得力ないので、もう少し何か説明の仕方を工夫してもらえませんかね。
2:02:57	例えばアノ 2 秒と 2 秒周期 2 秒のところの速度は形。
2:03:01	継続時間がどれぐらいなのかとか、
2:03:04	免震に対してどれぐらい影響があるかっていうことでは免震の固有周期のところ、
2:03:10	のは形に対して、
2:03:11	どれぐらいの継続時間、実際、模擬地震はとしてなっているのか。
2:03:16	というところを比較すれば、免震設計に対して影響が大きい、継続時間の観点から、
2:03:22	どうなのかっていう比較になると思うんですけど。
2:03:26	そういう比較をすると一発のような気もしないでもないですけど、何かいづれにしてもちょっと加速度は形で比較しても、あんまり比較にならないので、何か比較の仕方を工夫してもらえますか。
2:03:37	中部電力の湯浅です。ちょっとぱっと何が最適か、データがわかりませんけれどもご指摘の趣旨はわかりましたので、周期ちよいやや長周期の 2 秒あたりを意識した比較になるように
2:03:50	少し考えたいと思います。
2:03:53	町長の名倉です。あと
2:03:55	0.02 秒。
2:03:57	0.03 秒から 0.03 秒から 0.02 秒のところ、折り曲げるってということに関しては、
2:04:05	そのまま直線でいくと 1000 ガルになるんだけどそれを折り曲げて 1200 ある。
2:04:10	そうすると、実際目次自身はとして作成される。
2:04:15	はKの最大加速度ZPAは、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:04:18	1200 ガルになるっていうわけであって、1000 ガルである場合よりも、全体の嵩上げていう意味では、保守的になる。
2:04:29	という理解でよろしいです
2:04:33	入部電力の岩瀬です
2:04:35	一番基本加速度で決まってくる施設が多いと思いますのでそういう観点で最大加速度を上げるということは、施設評価上も、
2:04:45	保守的な評価になってるとは考え
2:04:52	既設の名倉です。
2:04:54	で、
2:04:55	特にハイブリッドで、
2:04:58	断層モデルによる手法やった場合に、
2:05:02	長周期で少し嵩上げされる分、
2:05:05	これが実はさPGAに出てきていて、少しく、ぴっと上がるような傾向になるんじゃないかなと、以前からいろんな先生にも言われていて、
2:05:16	そういう傾向を反映するというので、PGAを上げるような形で、
2:05:21	模擬地震を作るということについては実際そういうふうに全体をかさ上げしてるのであれば、その効果も間接的に入ってるからそれでいいんじゃないかっていう意見もちょっと昔いただいたことがあってバックチェックと、
2:05:33	だからそういう意味でちょっと線折り曲げることによって、
2:05:38	そこが保守で聞いな傾向になって作成したは形として保守的な傾向になっているのであれば、
2:05:44	そういったことも含めて説明をした方がいいか。ただし、
2:05:48	ちょっと気になってるのは
2:05:50	実際の設計上でどこを取るかって意味では、
2:05:54	一番左側の 0.02 をZPAにとっていなくて、55 と 10 のリュ境界、境界のところで取っているので設計上はどこで取るかって意味では、
2:06:05	影響しないのかもしれないけれども、母系全体としては、
2:06:10	かさ上げになってるはずなので、何らかの保守的な配慮になってるような気はするんですけど、ちょっとそういったところLowerアノちゃんと説明求められたら説明できるようにしていただけたらなと思いました。私からは以上です。
2:06:25	電力の岩瀬ですご指摘ありがとうございます折り曲げた形にしてることが、どういうところに影響するものなのかを、ちゃんと整理しておくようにということと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:06:37	受けとめました。
2:06:38	もう1回
2:06:40	しっかり整理をして考えて
2:06:43	ありがとう
2:06:54	はい。
2:06:57	そうすると、何で今日は1回目ということなんで
2:07:03	あともう1回ですかねヒアリングをして、
2:07:06	ちょっと会合の方ということでは考えてますんでまずは資料の修正をお願いします。今日が、今日は、
2:07:13	30、
2:07:19	ちょっと、またどのぐらいできそうかというところをご連絡いただいてヒアリング申し込んでいただくということで、はい。お願いします。
2:07:29	すいませんちょっとの時間が少し残り少なくなりますけどスケジュールはこれは何かいいですか、ちょっと簡単に。
2:07:38	はい。中部電力の尾川です。
2:07:40	時間も過ぎておりますので要点だけご説明をさせていただければと思っております。
2:07:46	冒頭のですね、3ページからのところについては、これまでの審査会合の変更点は赤字で示させていただいてまして、
2:07:57	基準津波の4ページのところですね。
2:08:00	こちらにつきましては、
2:08:02	審査対応スケジュールの方にも記載させていただいたんですが、今、基準地震動の策定の議論していただいておりますけれども、その審査会合の中で、
2:08:12	地すべりによるコメント回答をあわせて実施させていただけないかなというふうにまず思っております。今日のヒアリングの中ではちょっと資料提出できておりませんが、来週以降、
2:08:24	の提出はできるかなと思っております
2:08:28	これはですね。
2:08:29	あと、6ページのところの基準津波の関係につきましては、8月4日の審査会合の変更点を修正させていただいております。検討対象の選定のところにつきましては、
2:08:42	敷地に近い中の断層も検討対象とするということ、それから津波評価のパラメータスタディの検討方針のところについては、5、18断層については、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:08:53	深さ 2 から 5 キロの範囲で設定というふうにしておりましたけれども、ここは他のものに合わせて深さ 0 から 5 キロの範囲で設定するという事で、修正をかけております
2:09:03	10 ページのところからが審査対応スケジュールになっております。
2:09:07	今ご紹介したように、
2:09:10	基準地震動の方について、今日、本日 1 回目のヒアリングを実施していただきましたので、いただいたコメントを早急に修正してですね、
2:09:21	再度ヒアリングをしていただいた上で、私たちの希望としては 9 月に審査会合を、に図っていただきたいと思っております
2:09:31	基準津波に関しましては今、先ほどお話ししたように S2629 の二相流のコメント回答を、その審査会合と合わせて実施したいと。
2:09:41	それから、地震による津波に関しまして 8 月の審査会合でご議論いただいた内容については、1 回ですねコメント回答という形で、
2:09:51	実施させていただきたいと思っております、プレート間でいただいているコメントも併せて、
2:09:57	10 月に審査会合で説明をするということを考えております。
2:10:02	概略につきましては以上になります
2:10:09	はい。個別のページはちょっととりあえず置いといて、
2:10:14	地質は特に変わっ
2:10:18	てないですねひとまずちょっと少し、かなり範囲を広げたんで、ある程度時間かけて、
2:10:26	12 月ぐらいに 1 回説明と、
2:10:30	地震動の津波で基準地震動今ねヒアリングを
2:10:36	9 月中にはどこかで、会合と、1 回目は各会合という話で、
2:10:46	津波 No アノ二相流ですね、あれは一応どこかで結果ほぼそのやった結果がどうだったという話なんで、
2:10:56	それ単独でっていうことではないですけど一応津波の方が、
2:11:02	甲斐活断層プレートない組み合わせ法人がコメント回答残しなってるので、
2:11:09	この二相流の話ワー、なぜヒューヒュー基準地震動と同じ。
2:11:16	でなくても良い。
2:11:18	なんかそこその辺の優先具合はどうですか。えっとですね今資料の方もまとめておりますけれども枚数的に非常にコンパクト、
2:11:26	というか、それほどない、ないもんですから、できればこの基準地震動と合わせてやっていただければどうかなというふうに思っています。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:11:37	ちょっと、今回少し免震の話もあったんで、
2:11:43	少し
2:11:46	会合の中に、少し
2:11:49	津波をまぜ込むかどうかっていうことで、中身としてね大した話ではないし、
2:11:54	結果何かここ何だ。
2:11:58	何か再度組み合わせの計算にはねるような形。
2:12:03	かどうかを確認するというよりは、そうじゃないという一応見通しを持った上での確認。
2:12:09	計算をされてるんだと思うので、
2:12:12	ちょっとそこは最後、優先順位は
2:12:16	考えるかもしれませんが、はい。準備中であるというのは、
2:12:20	あとプレート間の方は、もうまさしくコメント回答というか、多分、
2:12:24	ここまでいろいろ紆余曲折があったものを一気に通貫の話にまとめてくださいねというところがあるので、
2:12:32	それもだからあれですね、9月の終わりぐらいに資料出てきて海域活断層プレート内と合わせてという
2:12:41	ですね、そのあとに組合、
2:12:44	組み合わせの結果と、
2:12:46	流れですね。はい。
2:12:47	一応御社どういう流れで、今のところ現状、
2:12:52	積み残しになってるものをどういう順番で処理していきたいかっていうのは、わかれば、
2:12:59	スケジュールを基本聞き置きましたということだと思いますけど、何かあります。
2:13:05	よろしいですか。
2:13:10	では、
2:13:14	規制庁の名倉です。
2:13:18	基準地震動の策定で9月にかけたいということなんですけど、今日ヒアリングを
2:13:26	第1回目やりましたけど、まだ少しですね論理構成と、
2:13:32	肉付けする根拠。
2:13:34	それが何かこう、
2:13:35	ちゃんとコンプリートに入っていなかったり、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:13:38	ちょっと何かその論理構成が少し揺らぐようなところもちょっとあるので、そのところは、
2:13:44	しっかり検討した上で、
2:13:47	資料を作成していただきたい。ある意味、
2:13:52	少し構成をちょっと見直さないといけない部分とかあると思いますので、
2:13:57	そこをちょっとしっかりやっていただきたいなと思いました。
2:14:03	ちょっと9月親目標に、下旬とか目標にやると言ってる。
2:14:08	状況としてはちょっと、
2:14:10	厳しいかなというのが今日の印象でしたので、
2:14:14	速やかにリカバリーをしてください。
2:14:17	で、途中、佐口の方から話ありましたが、
2:14:21	規制基準ガイドとの関連。
2:14:24	そのところも、やはり、
2:14:28	ちゃんと言及しないと今の内容は説明しきれていないんじゃないかなという気もしますので、
2:14:34	そういったところの、基準適合に関しての説明というところを今一度、
2:14:40	検討していただきたいと思います。私からは以上です。
2:14:45	中部電力の小川です。ご指摘ありがとうございます。今いただきました根拠の肉付けですとか、あとガイドとかとの関係の記載、そういったところについて、早急にですね対応して、
2:14:57	できればリカバリーをしていきたいと思ってますので引き続きどうぞよろしく願いいたします。
2:15:19	よろしいですかね。はい。
2:15:21	以上で、ヒアリングの方を終了したいと思います。疲れ様でした。
2:15:27	わかりました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。